

# 下関市多文化共生・国際交流推進計画

2021～2030

～多文化共生が拓く下関市の未来～



下 関 市

# 目 次

## 第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画の期間	2

## 第2章 下関市の国際化の現状と課題

1 下関市の国際交流の現状	2
2 下関市の国際交流の課題	6
3 下関市の多文化共生の現状と課題	8

## 第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念	31
2 基本目標	31
基本目標1 国際化に対応した人材育成	
基本目標2 国際交流の促進	
基本目標3 多文化共生のまちづくり	
3 計画の体系	32

## 第4章 計画の取り組みについて

基本目標1 国際化に対応した人材育成	33
施策目標(1) 国際理解の推進	
施策目標(2) 小・中学生等の海外派遣	
基本目標2 国際交流の促進	33
施策目標(1) 姉妹・友好都市との交流促進	
施策目標(2) 国際交流団体、ボランティアに対する支援及び人材育成	
施策目標(3) 東アジア都市間連携、国際協力の推進	
基本目標3 多文化共生のまちづくり	34
施策目標(1) 外国人住民に対するコミュニケーション支援	
施策目標(2) 外国人住民に対する生活支援	
施策目標(3) 市民に対する多文化共生の意識啓発・醸成	
施策目標(4) 外国人住民の地域社会への参画促進と多様性を活用した地域の魅力創出	

## 第5章 計画の進行管理及び推進体制

1 庁内の連携体制	37
2 関係機関等との連携、協働体制	37

《巻末》 関係資料、用語解説	38
----------------	----

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の目的

情報・通信技術の飛躍的な進歩や交通網の発展などに伴い、社会経済の状況は国家や地域の枠組みを越えてグローバル化・ボーダーレス化が進み、人の流れも国際的になり地域と世界の関わりは日常的なものとなりつつあります。

一方、わが国では少子高齢化の進展等に伴う国内産業分野での深刻な人手不足を背景に外国人労働者の受入れが拡大しており、全国の各地域で外国人住民が増加する中、日本人住民との間で、言語・文化・習慣の違いから地域での日常生活をめぐる様々な問題が発生しています。

こうした状況に、国においては平成18年3月に総務省により国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域の構成員として共に生きていく地域づくりを目指す「地域における多文化共生推進プラン」が策定され全国の地方自治体に示されたほか、平成30年12月には関係閣僚会議で「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」が取りまとめられるなど、現在、国を挙げて外国人の受入れと共生社会づくりへの取組が進められています。

「小さな国際都市 下関」を標榜する下関市は、これまで海外の5都市と姉妹・友好都市の盟約を結び、行政と民間双方のレベルで経済、スポーツ、教育、文化など多彩な国際交流を展開してきましたが、近年は、本市においても外国人住民が増加し、今後、その受入れに地域の日本人住民との「共生」という新たな取組が求められてきています。

そこで本市では、これまでの国際交流などの施策に加え、外国人住民が安全で安心して暮らせる地域づくりや、地域の住民と外国人住民が、共に地域社会を構成する一員として多様性を活かした豊かな地域づくりを推進していく「多文化共生社会」の実現を目指し、今後、市が取り組むべき方向性を定めた計画を策定します。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、総務省自治行政局国際室長から通知された「地域における多文化共生推進プラン」(平成18年3月27日総行国第79号)及び同プランの改訂通知(令和2年9月10日総行国第100号)を踏まえ、第2次下関市総合計画後期基本計画の第1章第5節「国際化の推進」に係る個別計画として位置付けます。

### 3 計画の期間

本計画は令和3年度(2021年度)から令和12年度(2030年度)までの10か年を計画期間とし、本計画の進行管理や本市を取り巻く社会経済情勢等の変化に対応するため、策定後5年を目途に計画の見直しを行います。

2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
第2次下関市総合計画後期基本計画					第3次下関市総合計画基本計画					
下関市多文化共生・国際交流推進計画										
					見直し					見直し

## 第2章 下関市の国際化の現状と課題

### 1 下関市の国際交流の現状

#### ①国際化に対応した人材育成・啓発、国際交流の促進について

下関市では、小・中学校での外国語指導助手(A L T)による授業や小・中学生の海外派遣研修、ホームステイ・ホームビジットの登録制度等を通じて市民の国際感覚の醸成を図ると共に、国際交流員(C I R)等による語学・文化講座等、国際理解を深めるイベントを開催するなど国際化の時代に対応できる人材の育成を行っています。

また、市民レベルの国際交流を促進するためボランティア通訳の登録制度や通訳技能研修、国際交流を行う民間団体への補助金交付など、本市の国際交流を担う人材や団体の育成・支援にも取り組んでいます。



小・中学生の海外派遣



釜山市職員の韓国語講座



ボランティア通訳研修

## ②姉妹・友好都市との交流について

### ◇サントス市(ブラジル連邦共和国)

1971(昭和46). 10. 6 調印

人口：43万人 面積：280km<sup>2</sup> 時差：12時間



#### ◎これまでの主な交流状況

- ・ブラジル日語学校連合会訪日団の来訪(1980年)
- ・下関市で在伯山口県人画家による絵画展開催(1983年)
- ・下関市で日伯修好100周年記念「ブラジル貿易フェア」開催(1995年)
- ・在伯山口県人会創立記念式典(55周年、65周年、70周年、90周年)への参加(於：サントス市)
- ・「下関海響マラソン」にサントス市から選手団が参加(2019年)

### ◇イスタンブール市(トルコ共和国)

1972(昭和47). 5. 16 調印

人口：1,416万人 面積：5,343km<sup>2</sup>

時差：7時間



#### ◎これまでの主な交流状況

- ・下関市で「トプカプ宮殿秘宝展」開催(1989年)
- ・イスタンブール市少年サッカーチームが来訪し下関市の少年サッカーチームと交流試合(1999年)
- ・イスタンブール市から下関市へトルコチューリップの球根5万球が贈呈される(2007年)
- ・市内火の山公園にトルコチューリップ園を開設(2009年)
- ・イスタンブール市の日本庭園を下関市の技術援助で改修。改修記念式典に安倍晋三内閣総理大臣(当時)及び下関市長一行が参加(2017年)

### 姉妹・友好都市交流の様子



#### ◇釜山広域市(大韓民国)

1976(昭和 51). 10. 11 調印

人口 : 345 万人 面積 : 766 km<sup>2</sup> 時差 : 0 時間

##### ◎これまでの主な交流状況

- ・行政職員(両市の市長一行等)の相互親善訪問
- ・各種スポーツ親善大会の相互開催
- ・両市交換職員の相互派遣(1992 年から)
- ・朝鮮通信使再現行列招へい(2002 年から)
- ・朝鮮通信使韓日文化交流祝祭に参加(2003 年から)



#### ◇青島市(中華人民共和国)

1979(昭和 54). 10. 3 調印

人口 : 939 万人 面積 : 11, 293 km<sup>2</sup>

※内市街地 人口 : 635 万人 面積 : 3, 293 km<sup>2</sup>

時差 : 1 時間

##### ◎これまでの主な交流状況

- ・経済、水産、都市建設、教育、衛生、旅行、商業等の考察団の受入
- ・小・中学生研修団の派遣(1990 年から)
- ・両市職員の相互派遣(2005 年から)
- ・「下関海響マラソン」に青島市から選手団が参加(2009 年から)
- ・青島市文化芸術団が馬関まつりに参加(2015 年から)



#### ◇ピッツバーグ市(アメリカ合衆国)

1998(平成 10). 12. 18 調印(日本時間 12. 19 調印)

人口 : 6 万 3 千人 面積 : 50 km<sup>2</sup> 時差 : 17 時間

##### ◎これまでの主な交流状況

- ・姉妹都市締結 1 周年記念に下関市から「ふくの像」を贈呈(1999 年)
- ・中学生派遣研修、ピッツバーグ市でホームステイ(2000 年から)
- ・下関少年少女合唱団がピッツバーグ市で公演(2001 年)
- ・ピッツバーグ市の高校生が下関市でホームステイ(2015 年から)



### ③国際協力について

1992年に下関市と北九州市が、両市の姉妹・友好都市に呼びかけ「東アジア6都市経済人会議」を開催したのを機に、翌年、「東アジア都市会議」が開催されました。

その後「会員都市の連携、経済交流、相互のネットワーク強化等により経済活動及び都市間交流の活性化を推進し環黄海地域における新たな広域経済圏を形成する」ことを目的に、中国の天津市や煙台市、韓国の蔚山広域市、日本の福岡市も加わり2004年に「東アジア経済交流推進機構」を組織しました。現在、日本の熊本市を加えた11都市でネットワークを形成して東アジア地域のビジネス、観光、環境など各分野での国境を越えた地方自治体同士の交流と国際協力を推進しています。



OEAD 総会(韓国・仁川市)



観光専門部会(中国・大連市)



観光共同プロジェクト  
(ベトナム・ホーチミン市)

## 2 下関市の国際交流の課題

### ①国際化に対応した人材育成・啓発、国際交流の促進について

これまで小・中学生については、姉妹・友好都市への海外派遣研修や学校でのALTを活用した授業等を通じて、また義務教育を終えた青少年については、主に所属するスポーツ団体の海外チームとの競技会・交流試合等、スポーツ交流事業を通じて国際感覚の醸成や国際理解の促進が図られてきました。

ところが近年は、こうしたスポーツ交流が少なくなり青少年が海外の同世代の若者と交流する機会が減少しています。

インターネットの普及やデジタル化の進展等により外国の言語、文化等を学ぶ環境は以前に比べて飛躍的に向上しましたが、国際理解や国際交流の推進には、何より人と人との直接的な交流が必要で、血の通った人的交流こそが国際理解、相互理解の基盤となり将来の国際化に対応した人材を育成する足がかりとなります。

今後、市民レベルの国際交流を更に促進していくためには、人と人との直接的な交流が図られるような新たな交流事業の創設や事業支援、既存の姉妹・友好校締結を生かした交流プログラムの見直し等の取組と併せ、行政と民間団体、市民の活動をつなぐ、地域における国際化関連施策の啓発・推進拠点を本市でも検討する必要があります。

### ②姉妹・友好都市との交流について

姉妹・友好都市の盟約を締結している海外5都市との交流は盟約締結の周年事業が交流の柱となっており、主に周年事業のイベントを通じて相互に行政職員や市民訪問団の受入れ等の交流が行われています。近年は、世界情勢により本市の姉妹・友好都市交流が影響を受ける状況もあり民間交流の後押しが必要ですが、姉妹・友好都市間での市民レベルの交流が当初に比べて低調となり行政主体の交流になりつつあるのが課題です。

今後は、オンライン等、ICTを活用した新たな交流の方策を検討しながら「民間交流」の推進を図るとともに、交流事業についても従来の親善交流の視点に基づく事業に留まらない施策が求められます。



### ③国際協力について

本市は、これまで北九州市と共同で「東アジア経済交流推進機構」の事務局を務め、機構の運営に関わると共に機構に設置された専門部会での交流・協力活動を通じ、主に「観光」「環境」「国際ビジネス」の分野で他の会員都市と連携して国際協力を行ってきました。

中国と韓国との国交が正常化される以前から日中韓の他都市間交流の先駆けとして機能してきた当機構ですが、2004年の設立から15年以上が経過し、東アジア地域を取り巻く国際経済・政治環境が大きく変化しています。それに伴い、推進体制についても見直しを検討するなど柔軟な対応が求められています。



留学生下関塾



リトル釜山フェスタ  
(テコンドーチーム)



友好都市会議(中国・青島市)

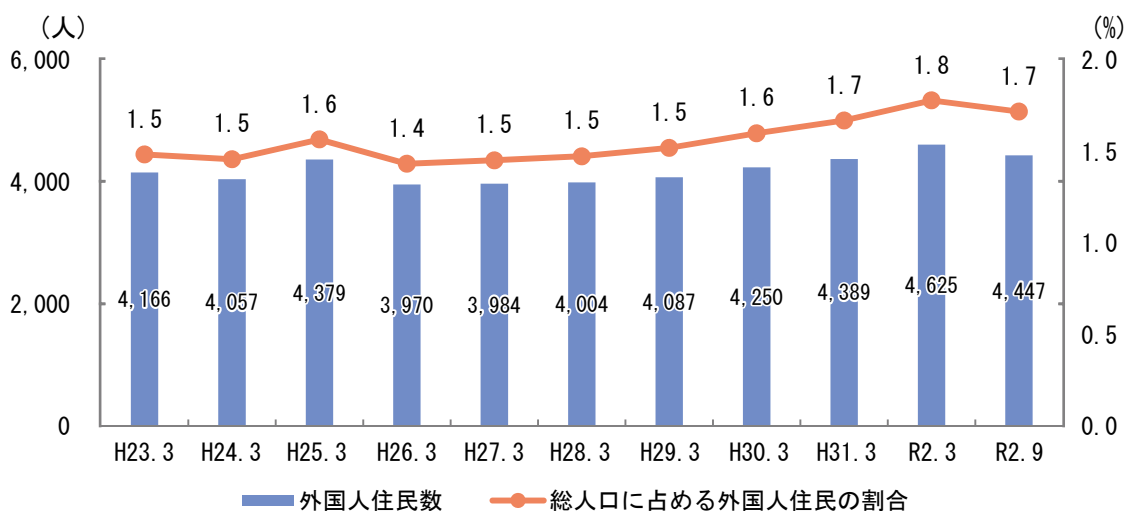
### 3 下関市の多文化共生の現状と課題

#### ①外国人住民の人口について

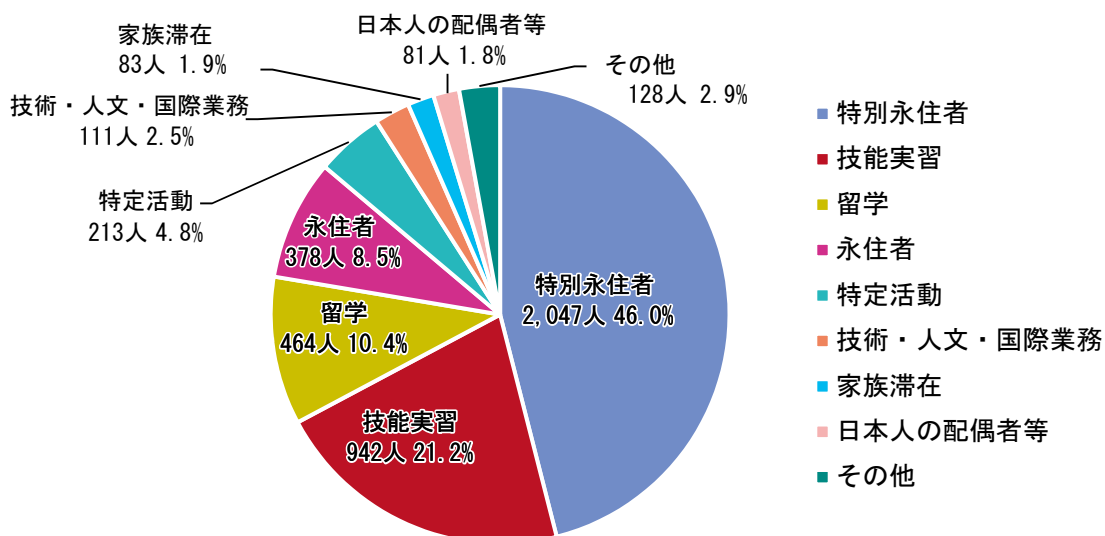
下関市の総人口は2020年9月末現在258,240人で、このうち外国人住民が総人口に占める割合は1.7%の4,447人となっています。

在留資格別では「特別永住者」が46.0%と最も多く、次いで「技能実習」が21.2%となっており、この2つで全体の約7割を占めています。国籍別では韓国・朝鮮が最も多く、次いでベトナム、中国・台湾の順となっており、近年はベトナムからの技能実習生が増えていることから、今後も外国人住民の比率が上昇することが想定されます。

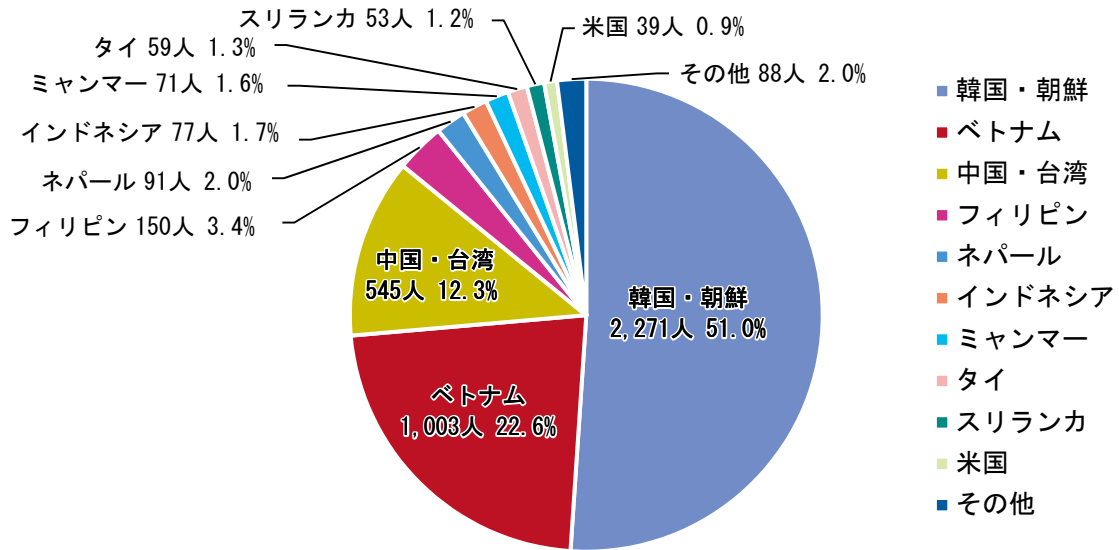
■ 図1 下関市の外国人住民数の推移(2020年9月末現在)



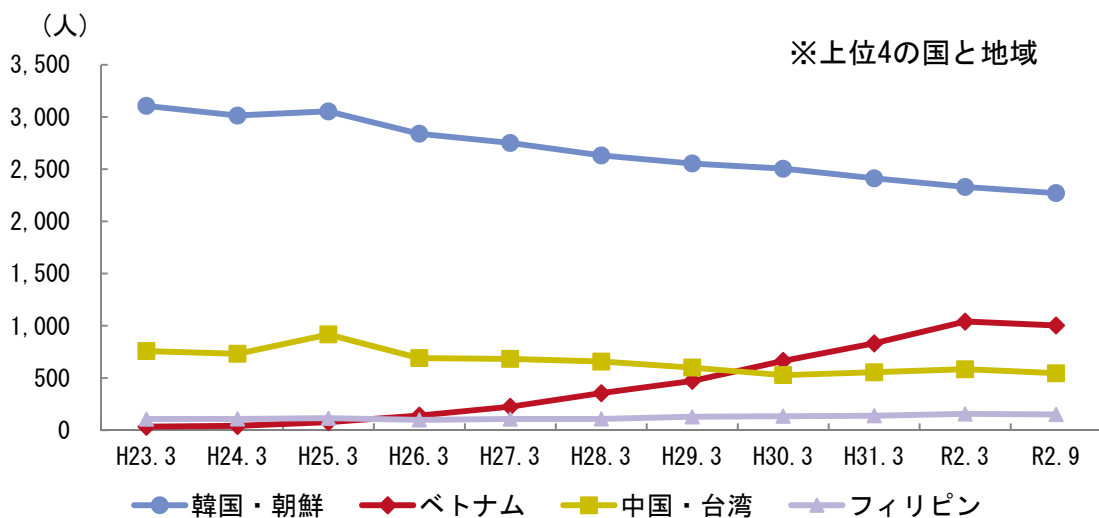
■ 図2 在留資格別外国人住民の割合(2020年9月末現在)



■ 図3 国籍別外国人住民数(2020年9月末現在)



■ 図4 国籍別外国人住民数の推移(2020年9月末現在)



## ②外国人住民及び外国人留学生の生活についての現状と課題

本計画の策定にあたり、下関市における外国人住民の現状と課題を把握する基礎資料とするため、市内在住の外国籍を有する18歳以上の住民400人と市内の大学に留学している留学生100人を対象に「多文化共生に関するアンケート調査」を実施しました。

〈多文化共生に関する外国人住民・外国人留学生アンケート調査の方法・回収結果〉

調査対象	①住民基本台帳に基づく1年以上在住している18歳以上の外国人住民(特別永住者を除く)400人【無作為抽出】 ②市内の大学(下関市立大学・梅光学院大学・東亜大学)に留学している外国人留学生100人【無作為抽出】
調査方法	自記式無記名の調査票を配布・回収(外国人住民には郵送、外国人留学生は各大学を通じて電子メールにて送付)
調査期間	令和2年6月10日から令和2年7月13日まで
配布数	外国人住民400(宛名不明返送分:13) 外国人留学生100
回収数	外国人住民90 外国人留学生100
回収率	39.0%

◇外国人住民アンケート調査結果の概要について(一部抜粋)

当該アンケート調査の結果から外国人住民の生活実態については、次のような現状と課題が明らかになりました。

【属性】

図5-1 男女別比率

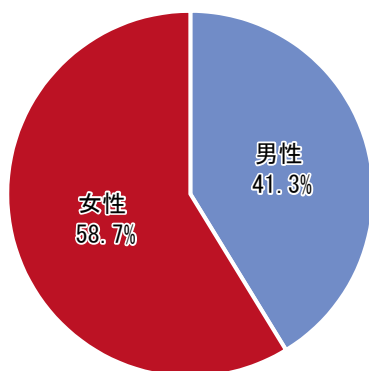


図5-2 年齢別比率

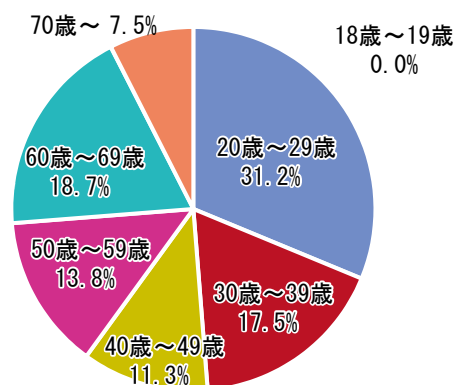
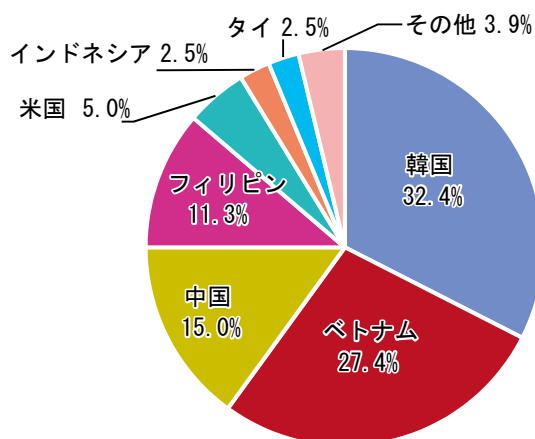


図5-3 国籍別比率



n=90

## 【住まい】

図6 問10) あなたは、現在住んでいる家をどのようにして見つけましたか。

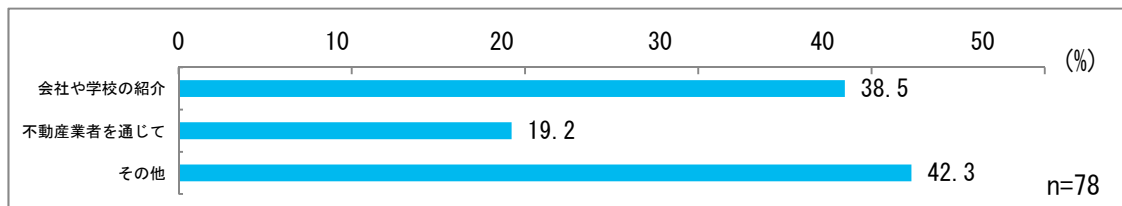
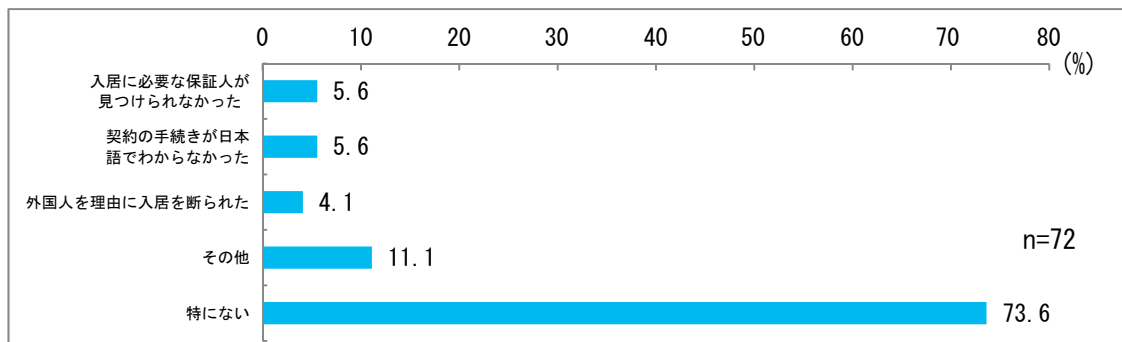


図7 問11) あなたは現在の家を見つけるときに、どんな困ったことがありましたか。  
(複数回答)



- ・市内に在住する外国人住民の約7割が特別永住者及び永住者、技能実習生である現状から(図2)、住居についてはアンケート回答者の約3割が「持ち家(一戸建て)」、約4割が技能実習生を受け入れている「会社や学校の社宅や寮」となっています(問9)。
- ・住宅の確保には雇用先の「会社や学校の紹介」によるものが約4割、「不動産業者を通じて」の入居が約2割で(問10)、入居の際に困ったことは約7割が「特にない」としてはいますが、「入居に必要な保証人が見つけれなかった」ケースや「契約の手続きが日本語でわからなかった」「外国人を理由に入居を断られた」との回答もありました(問11)。



## 《課題》

○住居を確保する際に、保証人を見つけることが出来なかった場合や外国人を理由に断られた場合があることから、外国人住民の入居が円滑に行われるよう、住宅を斡旋する不動産業者や家主などの関係者への協力要請等の取組が求められます。

## 【子育て・教育】

図8 問24) お子さんは日本語がどれくらいできますか。(複数回答)

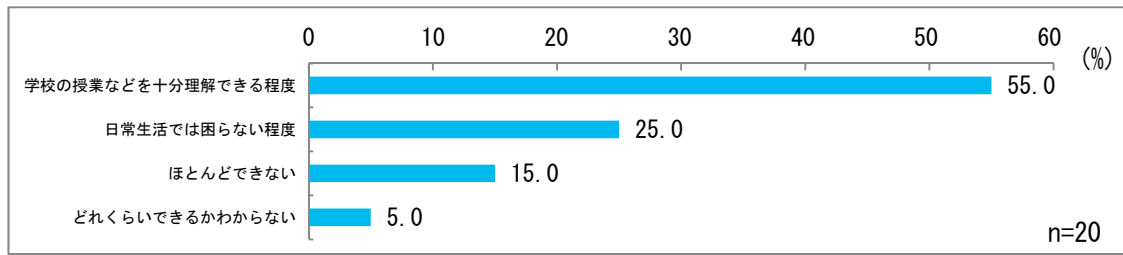
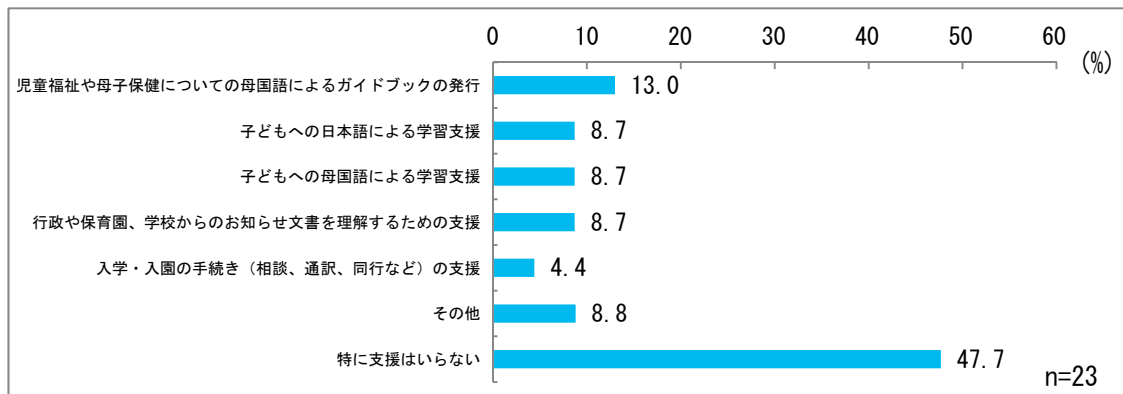


図9 問26) お子さんの子育てや教育について、どんな支援があったらいいと思いますか。(3つまで回答可)



- ・同居する子どもがいる外国人住民は約3割で(問23)、このうち保育園や学校等「どこにも通っていない」子どもが約1割いましたが(問23-2)、その理由は「日本語がわからないから」「すぐに帰国するから」との回答でした(問23-3)。
- ・全体では8割の子どもが「学校の授業などを十分理解できる程度」または「日常生活では困らない程度」の日本語能力を有しており「ほとんどできない」は約2割となっています(問24)。
- ・子育てや教育・学校で困っていること、不安なことについては約8割が「特にない」と回答していますが、「外国人を理由にいじめや差別を受ける」といった回答もありました(問25)。
- ・子育てや教育について、約5割の人が「特に支援はらない」との回答でしたが、子どもへの学習支援や、児童福祉や母子保健の母国語によるガイドブックの発行、また行政や学校等からのお知らせ文書を理解するための言語(コミュニケーション)支援を要望する回答もありました(問26)。
- ・また外国籍及び外国にルーツを持つ中学生のうち約8割の生徒が日本の高校への進学を希望しています(問27)。

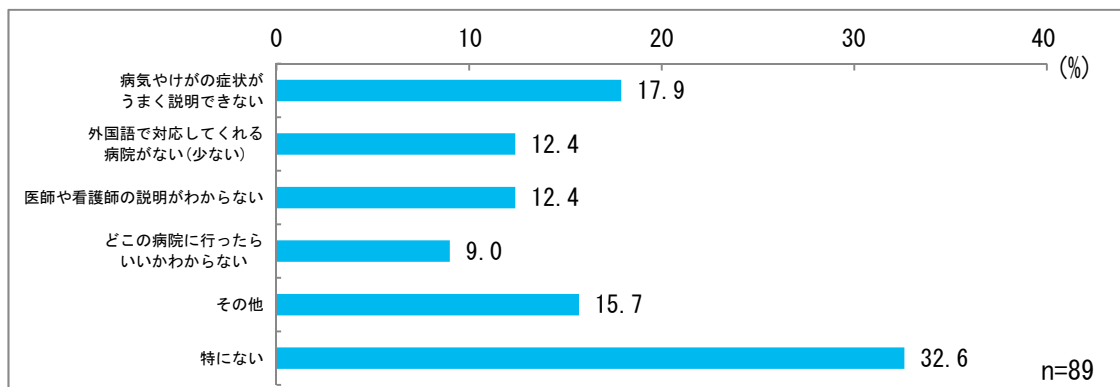


## 《課 題》

- 外国人住民の子どものうち、学校等に通っていない児童・生徒が存在し、学校での困りごとや不安な事柄にも「外国人を理由にいじめや差別を受ける」といった回答があることから、学校現場において外国籍及び外国にルーツを持つ児童・生徒等(以下「外国人児童・生徒」という。)に対する差別をなくす人権意識や多文化共生についての意識啓発と不就学防止について取り組む必要があります。
- 外国人住民の子どもの8割は、学校の授業または日常生活において困らない程度の日本語能力を有しているとの調査結果ですが、日本語の能力が十分でない外国人保護者(親)や子どもたちについては個別の語学支援、学習支援が必要となります。
- 子どもの入園、入学に係る手続き、進路の相談等についても個別のコミュニケーションに係る支援が求められます。

## 【医療・健康保険】

図 10 問 14-1) 問 14 で「はい」と答えた方に質問します。病院に行ったときに困ったことは何ですか。(複数回答)



- ・アンケートでは外国人住民のほとんどが健康保険に加入しており(問 13)、このうち約 6 割が「勤め先の健康保険」となっています(問 13-1)。
- ・医療機関で受診した際に困ったことでは、約 3 割が「特になし」と回答していますが、「病气やけがの症状がうまく説明できない」「外国語で対応してくれる病院がない(少ない)」「医師や看護師の説明がわからない」といった言語(コミュニケーション)や「どこの病院に行ったらいいかわからない」など情報の不足で困ったとの回答もありました(問 14-1)。



## 《課題》

○医療機関に関する情報や受診の際のコミュニケーションで困る外国人住民がいることから、今後、外国語対応が可能な医療機関・薬局に関する情報提供が求められます。

## 【雇用・労働】

図 11 問 12-2) 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。あなたの仕事の内容は次のどれですか。

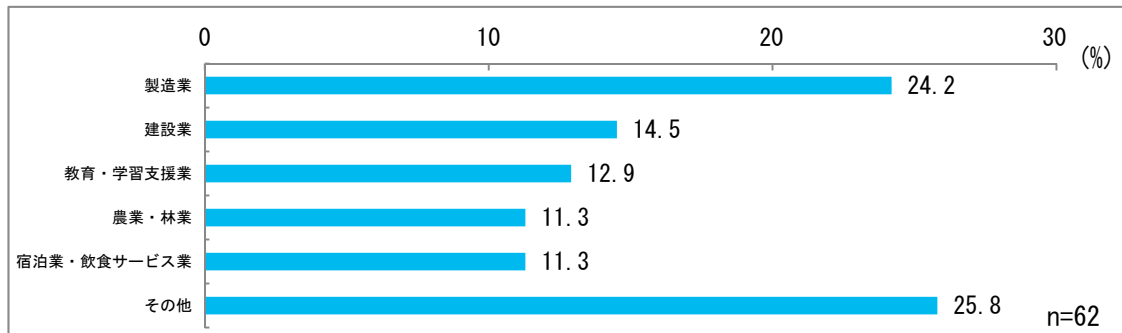
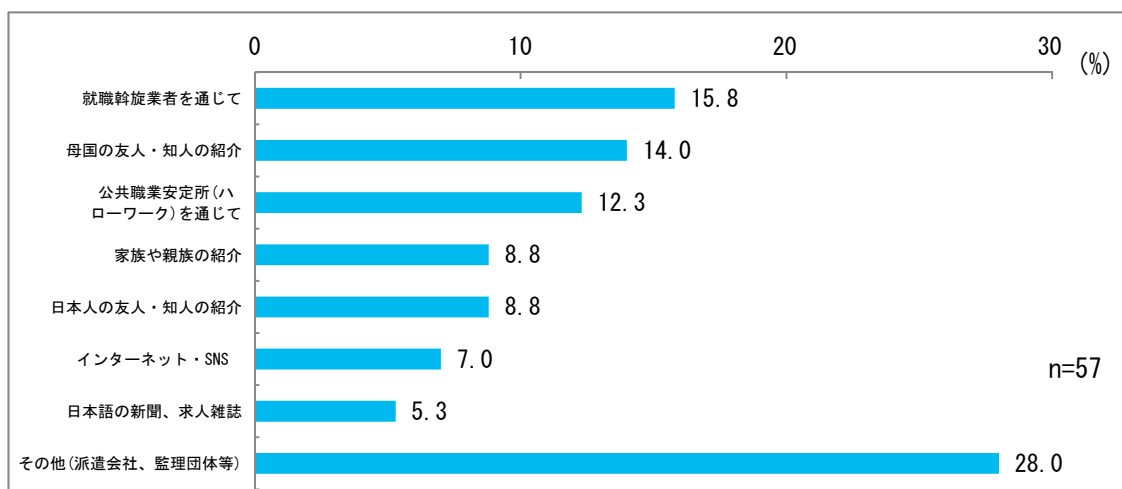


図 12 問 12-5) 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。あなたは、現在の仕事をどのようにして見つけましたか。



- ・アンケート回答者の 8 割の人が働いており(問 12)、そのうちの約 4 割が技能実習生・研修生です(問 12-1)。
- ・就労先の業態では全体の約 2 割が製造業、次いで建設業、教育・学習支援業、農業・林業、宿泊業・飲食サービス業と続きます(問 12-2)。
- ・技能実習生が多いことから、現在の就労先は、就職斡旋者の紹介によるものが約 2 割を占めているほか、「その他」として、派遣会社や監理団体等といった回答もありました(問 12-5)。



- ・就労先での仕事について困っていることでは、6割の人が「特にない」と回答していますが、「賃金が安い」「日本人と待遇が違う」との回答が併せて約3割ありました(問12-6)。

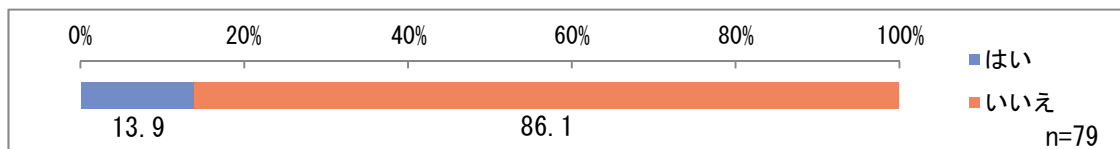


《課 題》

○本市では製造業に従事する技能実習生が多いため、監理団体や雇用先企業、またハローワーク等の関係機関・団体との連携により労働環境の改善や人権擁護の意識啓発に努める必要があります。

【防 災】

図13 問19) 下関市では防災についての講座や各地域で防災訓練を行っていますが、あなたは参加したことがありますか。



- ・災害が起きた際の避難場所を知っていると回答する外国人住民が約6割いる一方で(問16)、災害に対して「準備をしていない」「何を準備していいのかわからない」を含むとの回答が約6割を占め(問18)、地域で行われている防災訓練や防災講座に「参加していない」「参加方法がわからない」「そのような訓練などがあることを知らない」を含むとする回答が8割を超えています(問19)。
- ・災害時の情報について「日本のテレビ・ラジオ」や「インターネットやSNS」を通じて得るとの回答が約6割、「日本人の友人・知人」から情報収集をするという回答が約3割ありました(問17)。



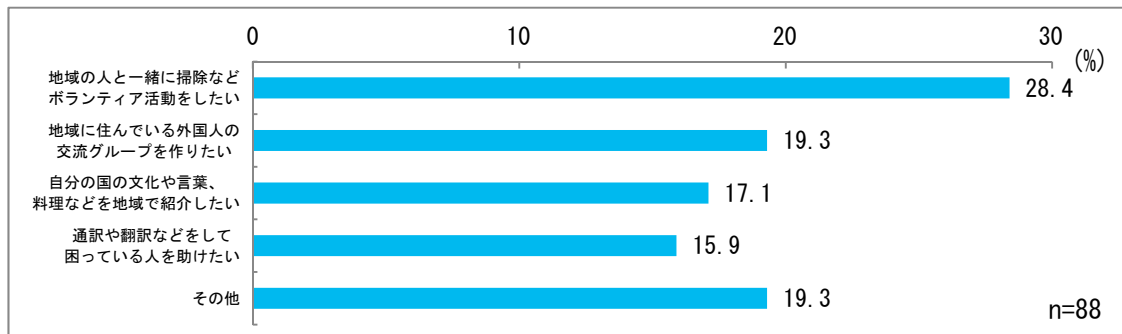
《課 題》

○地域の防災訓練に参加したり、災害への備えをするなど、外国人住民にも防災に対する意識を日頃から高めてもらう取組が必要です。

○災害が発生した際に外国人住民の安否確認や避難場所、避難経路などの情報伝達が速やかに、かつ的確に行われ、必要な支援が得られるような体制を整備していく必要があります。

## 【近隣・地域との関わり】

図 14 問 22) あなたは地域でどんなことをしてみたいですか。(複数回答)



- ・外国人住民の近隣の日本人との付き合いでは「あいさつをするぐらい」が約 4 割で、「たまに話をする」が約 3 割、「よく話をしたり遊びに行ったりする」のは約 2 割となっています(問 20)。
- ・地域の活動に参加している外国人住民は約 4 割で(問 21)、そのうち「地域のお祭りや行事に参加」との回答は約 4 割、「自治会に入って活動している」は約 2 割となっています(問 21-1)。
- ・一方、地域の活動に参加していない約 6 割の外国人住民(問 21)の不参加の理由は、「活動しているのを知らないから」「誘われないから」が併せて約 4 割、「言葉が通じないから」が約 2 割となっています(問 21-2)。
- ・地域でしてみたいこととして「住んでいるまちの人と一緒にボランティア活動をしたい」という回答が約 3 割と最も多く、その他「地域に住んでいる外国人の交流グループを作りたい」「自分の国の文化や言葉、料理などを地域の人や学校の授業で紹介したい」「通訳や翻訳などをして困っている人を助けたい」とする回答がそれぞれ約 2 割ありました(問 22)。



### 《課 題》

- 外国人住民は、近隣住民との交流を含め、地域との関わりについては希薄ではないものの、地域の活動に積極的に参加し地域社会の一員として役割を果たしている状況とは言えません。今後、地域において、日本人住民との交流機会を創出すると共に、自治会・消防団等の地域団体への参加を促進していく取組が求められます。
- 外国人住民が地域の活動に容易に参加できるよう、祭りやイベント、ボランティア活動等の地域における情報を外国人住民にも的確に提供できる環境整備が必要です。
- 外国人住民による自助組織やネットワーク構築への支援を通じて外国人住民の視点を活かした地域づくりを進めていく必要があります。

## 【日本語能力・日本語学習】

図 15 問 30) あなたの「日本語を読む」能力はどれくらいですか。

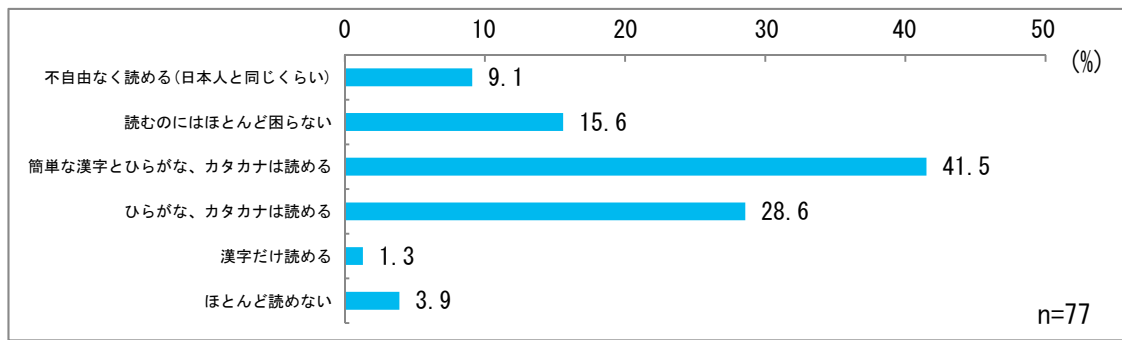
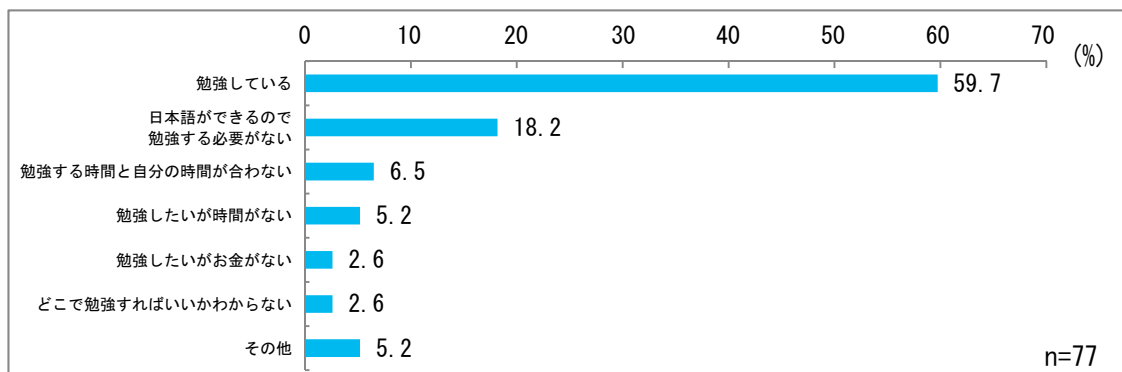


図 16 問 32) あなたは現在、日本語を勉強していますか。



- ・外国人住民の日本語能力について、「聞く」能力は約5割の人が「不自由なく聞き取れる」または「ほとんど聞き取れる」と回答し、「ゆっくりなら聞き取れる」との回答を併せると約9割の人が日本語を聞き取れる能力を有していることがわかります(問28)。
- ・「話す」能力については約5割の人が「不自由なく話せる」または「会話にはほとんど困らない」と回答し、「日常会話ができる」との回答を併せると約8割の人は日常生活において日本語を話せる状況となっています(問29)。
- ・「読む」能力については「不自由なく読める」または「読むのにはほとんど困らない」という人は約2割ですが、「簡単な漢字とひらがな、カタカナは読める」という人が約4割、「ひらがな、カタカナは読める」とする人が約3割いることから、「ひらがな」があれば外国人住民の9割以上は日本語が読める状況です(問30)。
- ・「書く」能力については「不自由なく書ける」または「書くのにはほとんど困らない」という人が約2割、「簡単な漢字とひらがな、カタカナは書ける」という人が約5割、「ひらがな、カタカナは書ける」という人が約3割という結果から、「ひらがな」であれば外国人住民の9割以上は日本語が書ける状況にあります(問31)。

- ・約6割の外国人住民は日本語を学習していますが、日本語を学びたくても時間やお金がない人、どこで勉強すればいいのかわからない人が約1割います(問32)。
- ・日本語学習者の回答のうち6割が自学で、「家族・親族から」は約1割となっています(問32-1)。

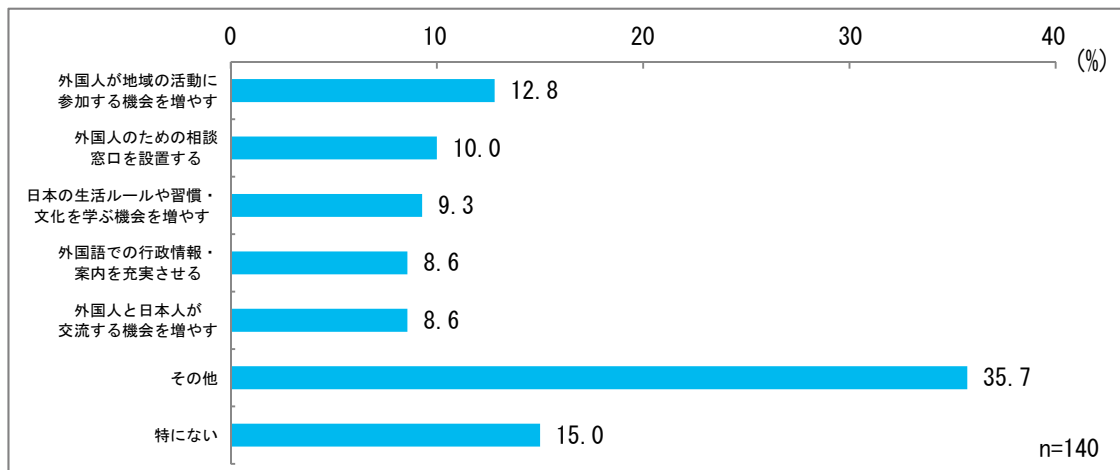


## 《課題》

- 外国人住民の多くは日本語での読み書き、会話が出来る日本語能力を有していることから、「やさしい日本語」やフリガナ付きの文書であれば、少なくとも日常・社会生活における情報の提供や日本人との円滑なコミュニケーションは可能と思われ、今後、地域において「やさしい日本語」の普及促進が求められます。
- 日本語を学ぶ意思があっても機会が得られない外国人住民も約2割いることから、より利用しやすい日本語教室の開設や運営等、日本語学習環境の充実に留意する必要があります。

## 【日常生活】

図17 問39) あなたは外国人が暮らしやすいまちとなるために、下関市にはどんなことが必要だと思いますか。(3つまで回答可)



- ・日常生活で困ったことについては約6割の外国人住民が「特にない」と回答していますが、「母国の人や他の外国人と交流できる場がない」「近所付き合いが難しい」「税金の仕組みがわからない」と感じている回答がそれぞれ約1割あります(問33)。
- ・困ったときの相談相手としては「家族・親戚」「日本人の友人・知人」が併せて約6割と最も多く、次いで「職場の人や学校、寮の先生・職員」が約2割となっています(問34)。

- ・ 日常の生活情報については、主に「日本語のテレビ・ラジオや新聞・雑誌」から得ているとの回答が約3割、また、「インターネット」やフェイスブック、ライン等の「SNS」から入手しているとの回答が併せて約2割となっています(問35)。
- ・ 市役所の本庁や支所に来所した際に困ったことについては約5割が「特にない」と回答していますが、「書類が日本語で内容がわからなかった」「職員の説明が難しく、内容や手続きの仕方がよく理解できなかった」「窓口で言葉が通じなかった」との回答が併せて約3割ありました(問36)。
- ・ 外国人住民の約3割が日本人からの差別や偏見を感じたと回答し(問37)、「仕事をするとき」や「近所付き合いの中」でそれらを感じたとの回答が約5割を占めています(問37-1)。
- ・ 外国人が暮らしやすいまちとなるために下関市が取り組むべきものとして、「外国人が地域の活動に参加する機会を増やす」「日本の生活ルールや習慣・文化を学ぶ機会を増やす」「外国人と日本人が交流する機会を増やす」など、多様な交流機会の増加を求める意見が寄せられ、「外国人のための相談窓口の設置」を求める回答もありました(問39)。
- ・ また、約9割の外国人住民が今後も引き続き下関市に住みたいと回答しています(問41)。



#### 《課 題》

- 日常生活の困りごととして「近所付き合いが難しい」との回答が約1割存在し、日本人からの差別や偏見を感じるのは「近所の人との付き合いの中で」という回答が約2割あることから、近隣住民と外国人住民との相互理解や交流促進などの取組に留意する必要があります。
- 生活情報は「日本のメディア」や「インターネット」「SNS」を通じて情報を入手するという回答の割合が高く、情報の発信・伝達の有効な手法としてICTの活用を検討する必要があります。
- 来庁時の窓口で意思疎通に困る外国人住民には「やさしい日本語」や多言語による対応が求められます。
- 地域や職場での外国人住民への差別や偏見に対する人権擁護の意識啓発が求められます。
- 外国人住民の地域活動への参画機会や日本人との交流の機会等を増やすことにより地域における多文化共生への理解促進、意識啓発に取り組む必要があります。

◇外国人留学生アンケート調査結果の概要について（一部抜粋）

市内3大学(下関市立大学、梅光学院大学、東亜大学)に通学している留学生の生活実態については、次のような現状と課題が明らかになりました。

【属性】

図18-1 男女別比率

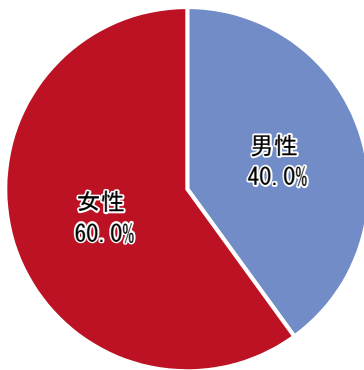


図18-2 年齢別比率

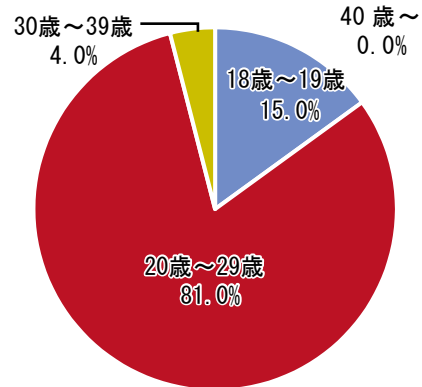
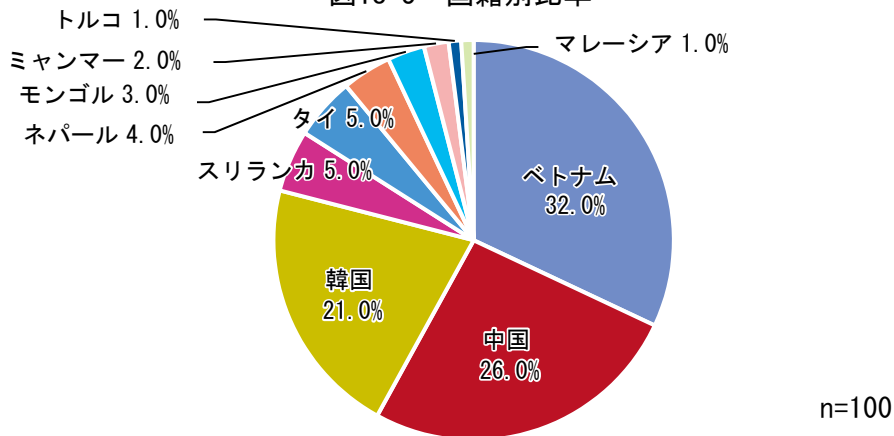
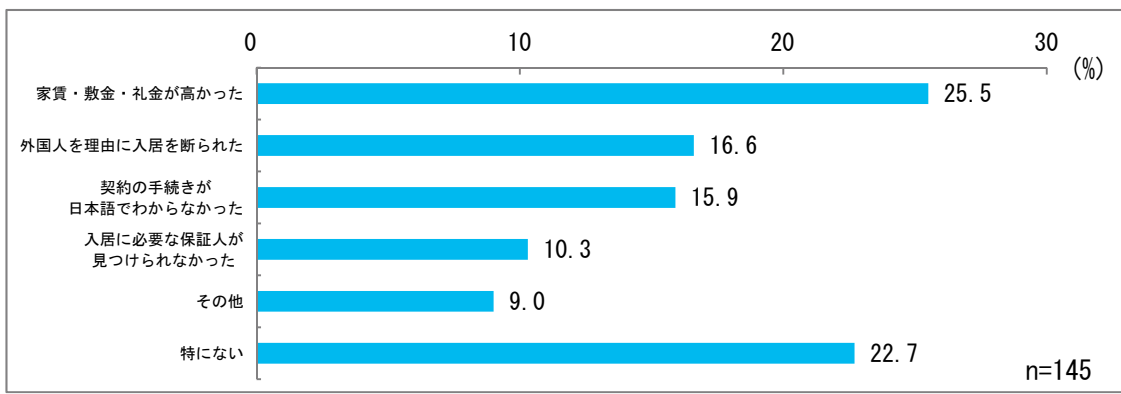


図18-3 国籍別比率



【住まい】

図19 問10) あなたは現在の家を見つけるときにどんな困ったことがありましたか。(複数回答)



- ・7割を超える留学生が日本での就職、または母国や外国の日本企業・日系企業での就労を目的として市内の大学に留学しており(問5)、約8割の留学生が民間アパートに居住しています(問8)。



《課題》

○入居に際し、留学生の場合は「家賃・敷金等が高かった」との回答が多く、外国人を理由に入居を断られたり、入居に必要な保証人が見つけられずに困ったという回答もあることから、留学生の住宅確保については、特に住宅を斡旋する不動産業者や家主などの関係者への協力要請や多文化共生意識の啓発等の取組が求められます。

【就労（アルバイト）】

図20 問11-1) 問11で「はい」と答えた方に質問します。あなたはどんなアルバイトをしていますか。

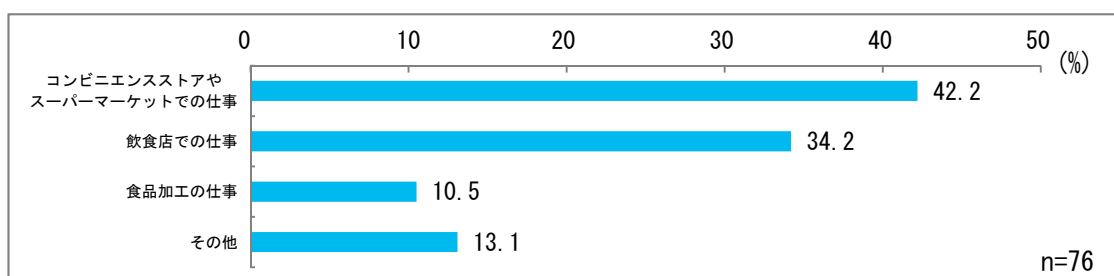
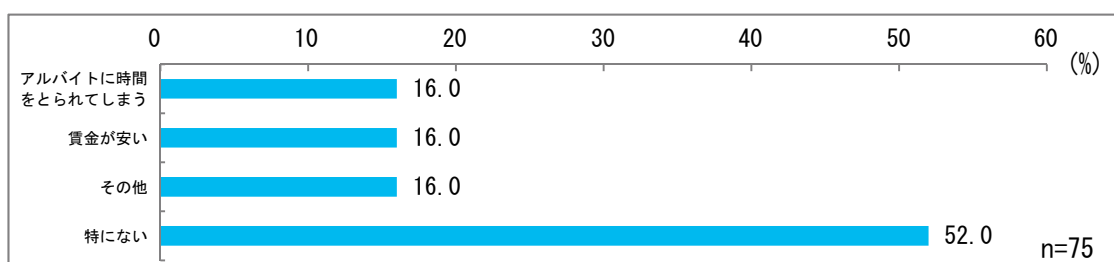


図21 問11-5) 問11で「はい」と答えた方に質問します。現在のアルバイトについて困っていることは何ですか。(3つまで回答可)



- ・留学生については、出入国在留管理庁の事前許可(資格外活動許可)を得ることで週28時間以内のアルバイトが可能であり、市内留学生の約8割がアルバイトをしています(問11)。このうちの約8割がコンビニやスーパーマーケット、飲食店でのアルバイトです(問11-1)。

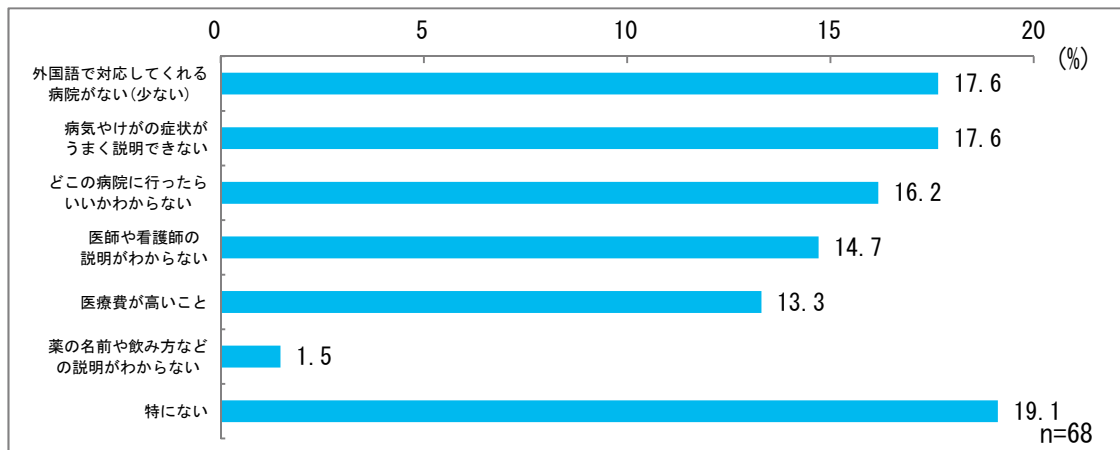


## 《課題》

○アルバイトをしている留学生の半数は「特に困ったことはない」と回答していますが、アルバイトに時間をとられてしまう学生やアルバイトをしたいが、その時間がない学生、自分にあつたアルバイト先が見つからずにアルバイトができない学生も存在しており、勉学とアルバイトの両立に苦慮する留学生がいることにも留意する必要があります。

## 【医療・健康保険】

図 22 問 14-1) 問 14 で「はい」と答えた方に質問します。病院に行ったときに困ったことは何ですか。(複数回答)



- ・留学生のほとんどは健康保険に加入していますが(問 13)、医療機関で受診した際に、病院の場所や医師・看護師との対応で言語の面から困った経験があることがわかります(問 14-1)。



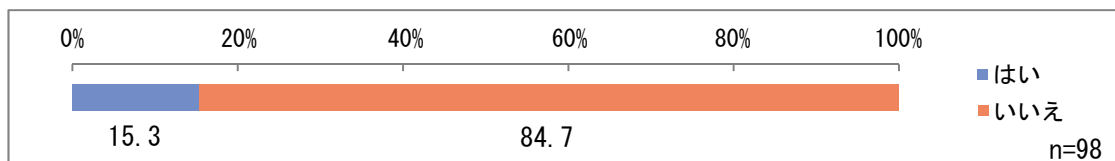
## 《課題》

○留学生についても医療機関に関する情報や受診の際のコミュニケーション支援が必要です。外国語対応が可能な医療機関・薬局に関する情報提供が求められます。



## 【防 災】

図 23 問 19) 下関市では各地域で防災についての講座や防災訓練を行っていますが、あなたは参加したことがありますか。



- ・留学生の6割以上が災害時の避難場所を知らず(問16)、約8割の留学生は災害に対する準備が出来ていない状況です(問18)。地域で開催される防災講座や防災訓練についても「知らない」「参加方法がわからない」等の理由で8割以上の留学生が参加していません(問19)。

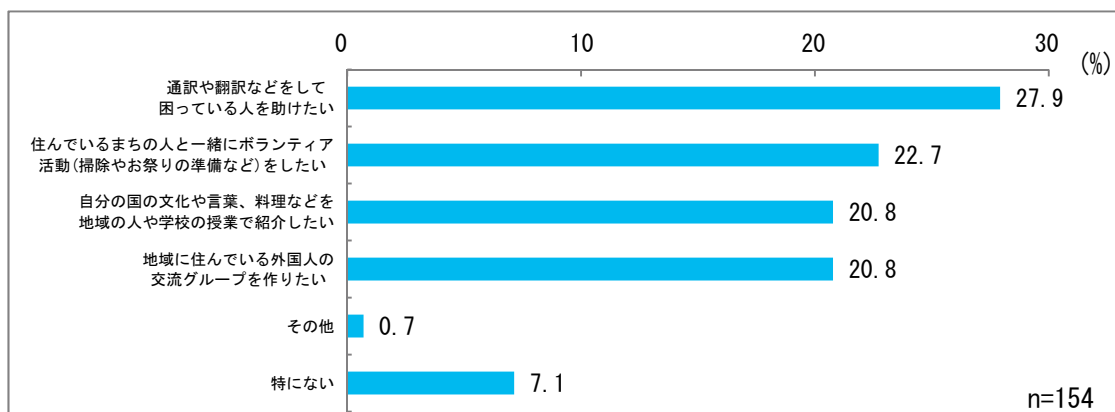


## 《課 題》

- 地域の防災訓練に参加したり、災害への備えをするなど、留学生にも防災に対する意識を日頃から高めてもらう取組が必要です。
- 災害が発生した際の避難場所、避難経路などの情報伝達が速やかに、かつ的確に行われ、必要な支援が得られるような体制を整備していく必要があります。

## 【近隣・地域との関わり】

図 24 問 22) あなたは地域でどんなことをしてみたいですか。(複数回答)



- ・留学生の8割以上が「あいさつをするぐらい」を含めると近隣との付き合いはある一方(問20)、同じく8割以上が地域の活動には参加していません(問21)。不参加の理由は「活動しているのを知らないから」「誘われないから」が約6割を占めています(問21-2)。しかし、地域の活動に参加している留学生の回答のうち、「地域のお祭や行事に参加」は約7割で、「地元の消防団やボランティア団体で活動している」は約1割でした(問21-1)。また、留学生の多くは地域において「通訳や翻訳」「ボランティア活動」「自

国の文化や料理等を紹介したい」などと望んでいることがわかります(問22)。

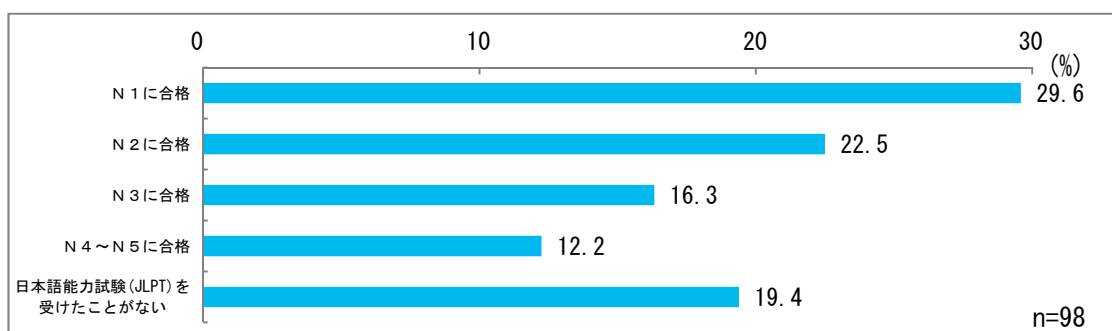


### 《課題》

○留学生の多くは地域で活動をしたいと希望しており、居住する地域の自治会等から案内があれば地域の活動に参加する留学生は更に増えることが予想されます。地域の住民と留学生の交流機会の創出等を通じて大学と地元自治会等との間で地域行事等の情報提供や共有が出来る環境づくりが求められます。

### 【日本語能力・日本語学習】

図 25 問 29) あなたは日本語能力試験(JLPT)に合格しましたか。



・9割以上の留学生は日常会話において「ゆっくり」とした日本語のスピードであれば「聞く」「話す」ことについては困らず(問23・問24)、また、「簡単な漢字とひらがな、カタカナ」であれば、日本語を「読む」「書く」能力も十分有していることがわかります(問25・問26)。また約7割の留学生が日本語能力試験のN3(日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できるレベル)から最上級のN1(幅広い場面で使われる日本語を理解することができるレベル)の合格者です(問29)。



### 《課題》

○大半の留学生は「やさしい日本語」との併用であれば、日常・社会生活における日本語での情報の取得や日本人とのコミュニケーションについて問題はなく、今後は日本人住民に向け「やさしい日本語」の普及が求められます。

## 【日常生活】

図 26 問 36) 外国人が暮らしやすいまちとするために、下関市は何をするべきだと思いますか（複数回答）。

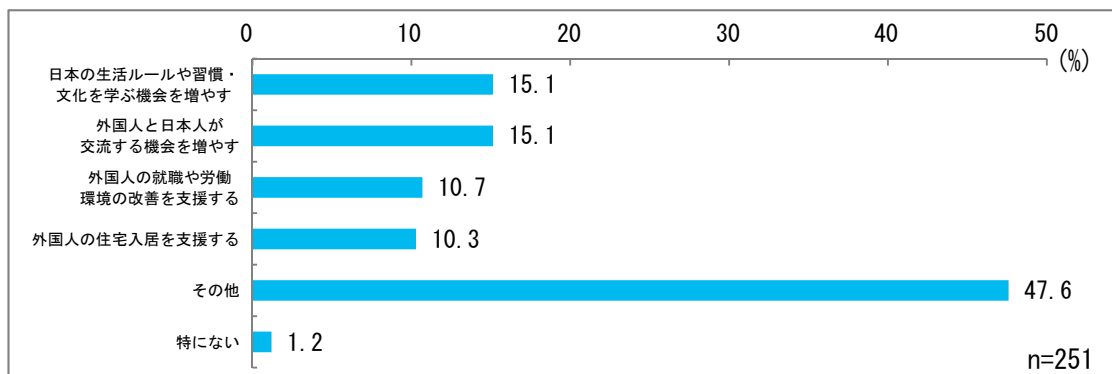
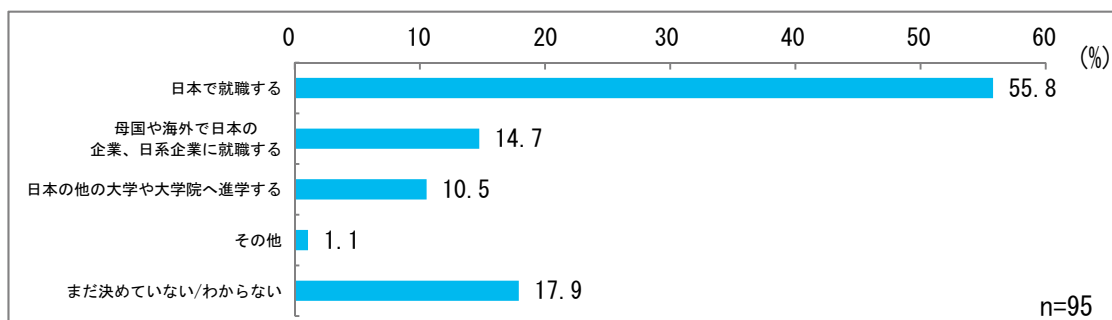


図 27 問 37) あなたは市内の大学を卒業後、どうしますか。



- 日常生活では、留学生が「今後の進路」や「大学の授業」のことで悩んでいることに加え、「日本人の友人ができない」ことを挙げています(問 30)。困ったときの相談先として「大学の先生・職員」との回答が最も多く、「日本人の友人・知人」は1割にも満たない回答結果からも、大学での留学生と日本人学生との交流の少なさが伺えます(問 31)。
- 生活情報については「大学の先生・職員」から取得するとの回答が約4割を占めており、留学生にとっては留学先の大学が日常生活を送る上での拠り所であることがわかります(問 32)。
- 留学生の4割が日本人からの差別や偏見を感じたと回答し(問 34)、そのうち「アルバイト先で仕事するとき」や「住まいを探すとき」にそれらを感じたとの回答が約7割でした(問 34-1)。
- 外国人が暮らしやすいまちとなるために下関市が取り組むべきものとして「日本の生活ルールや習慣・文化を学ぶ機会を増やす」と「外国人と日本人が交流する機会を増やす」ことの2つを挙げる留学生が最も多く、次いで「外国人の就労や労働環境の改善を支援する」ことを求める回答結果となっています(問 36)。

- ・大学卒業後の進路については約7割の留学生が日本の企業、または母国や外国の日系企業での就職を希望していますが(問37)、引き続き下関市に住みたいと思う留学生は約半数に留まっています(問38)。



### 《課題》

- 各大学においては、留学生と日本人学生との交流機会を増やすとともに、留学生が学生生活全般について気軽に相談できる環境を整備する取組が求められます。
- 日本語の運用能力を活かし日本企業・日系企業への就職を希望する留学生が多い中、卒業後の進路について不安を感じ、就職に係る支援を望む学生もいることから、大学の就職担当課や地元企業、商工会議所等の関係団体と連携して留学生の地元企業への就職促進に取り組む必要があります。



### ③日本人住民の多文化共生に関する意識と課題について

外国人住民・留学生のアンケート調査に合わせ、日本人住民についても多文化共生に関する意識を把握するためのアンケート調査を下記により実施し、次のような現状と課題が明らかになりました。

#### 〈多文化共生に関する日本人住民アンケート調査の方法・回収結果〉

調査対象	住民基本台帳に基づく18歳以上の日本人住民600人(特別永住者を含む) 【無作為抽出】
調査方法	自記式無記名の調査票を郵送にて配布・回収
調査期間	令和2年6月10日から令和2年7月13日まで
配布数	600
回収数	267
回収率	44.5%

#### ◇日本人住民アンケート調査結果の概要について(一部抜粋)

#### 【属性】

図28-1 男女別比率

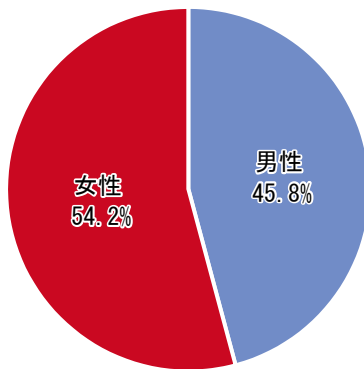


図28-2 年齢別比率

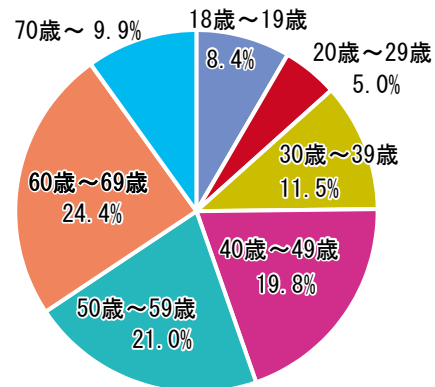
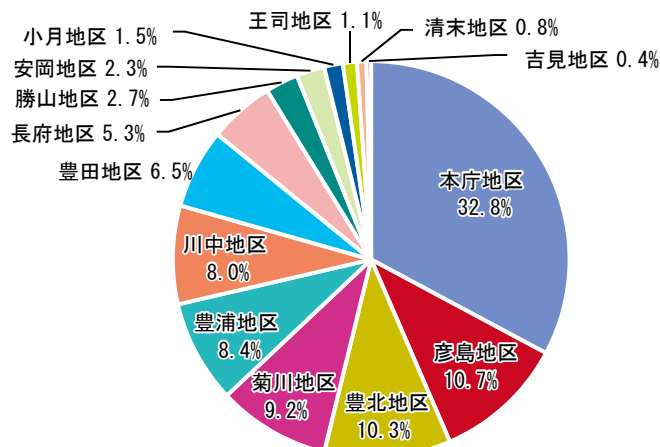


図28-3 地域別比率



n=267

図 29 問 10) あなたは外国人住民に対して偏見や差別の気持ちがありますか。

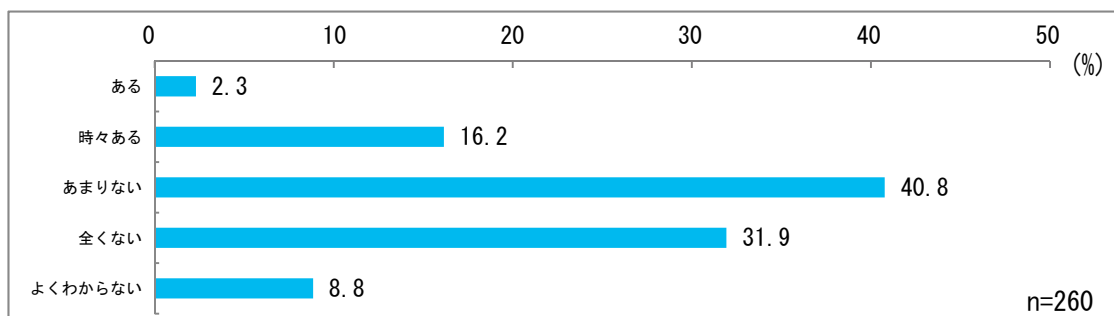


図 30 問 12) 外国人住民は今後さらに増えていくことが見込まれますが、市内に外国人住民が増えていくことについて、あなたはどのように考えますか。(3つまで回答可)

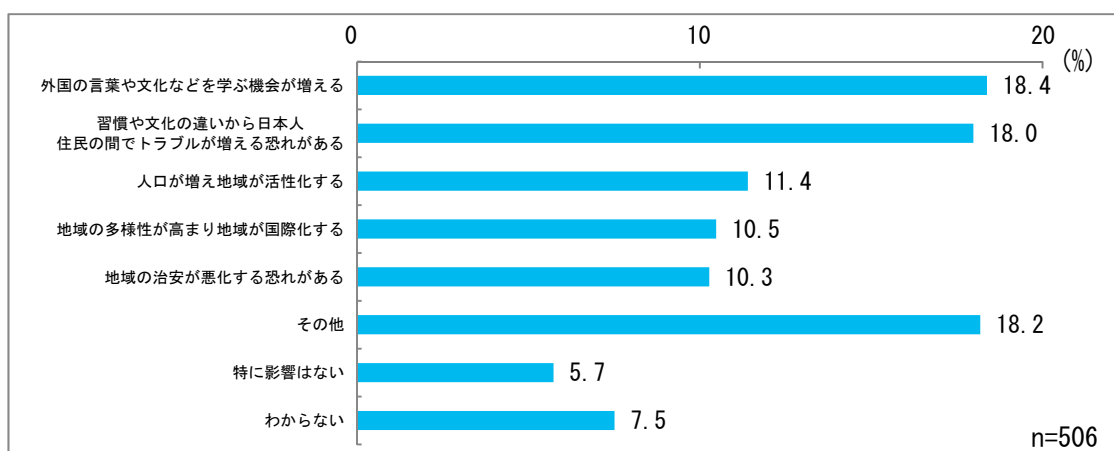


図 31 問 14) 外国人住民と共に暮らしていただける地域にするために日本人住民ができることは何だと思えますか。(3つまで回答可)

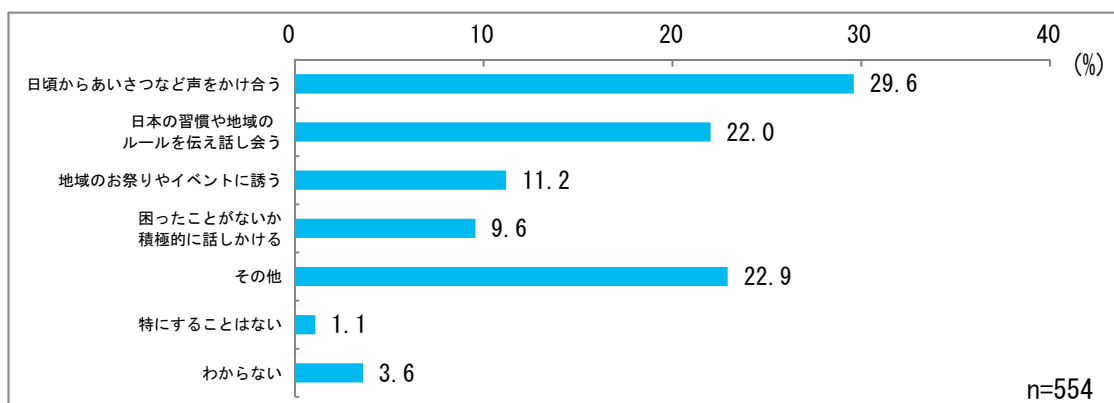
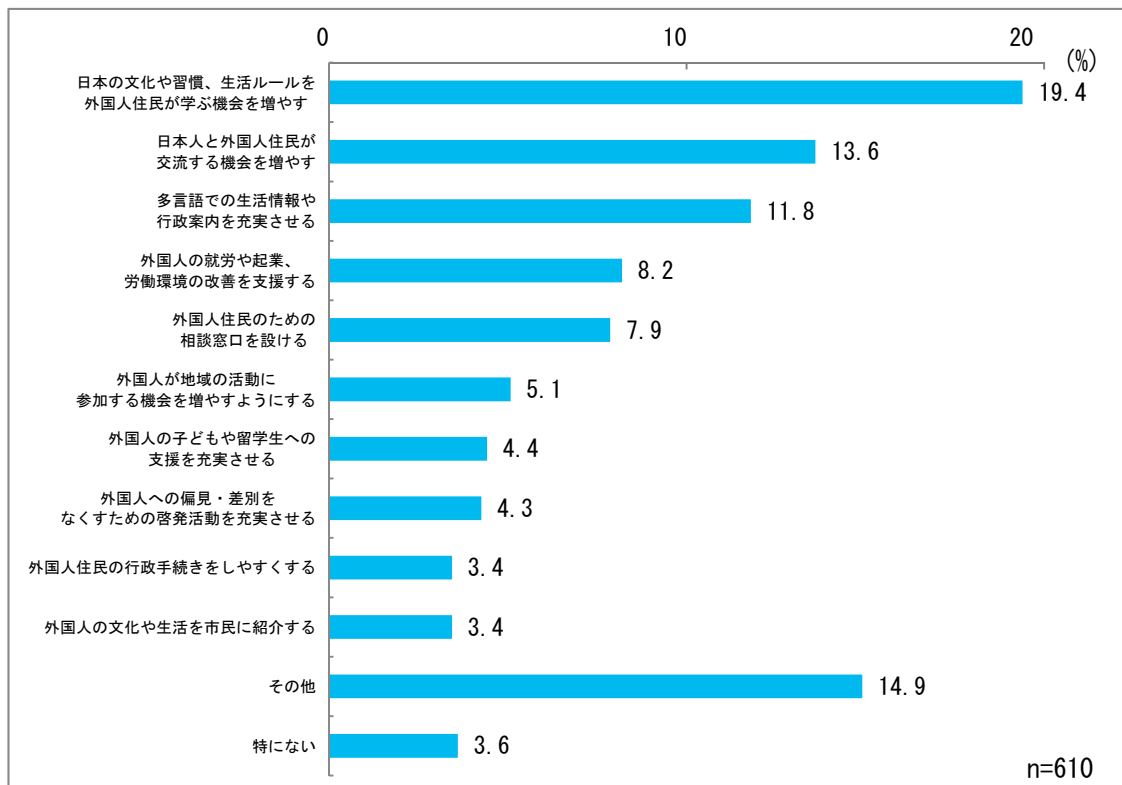


図 32 問 16)日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らしていけるまちづくりのために、下関市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。(3つまで回答可)



- ・日本人住民の約6割が市内で外国人が増加したと認識していますが(問7)、約7割の市民は外国人住民と直に接する機会を有していない状況が伺えます(問8)。
- ・約7割の日本人住民が外国人住民に対する偏見や差別の気持ちが「全くない」または「あまりない」と回答する一方で(問10)、外国人住民との交流や関わりを望まない日本人住民も約5割存在します(問9)。
- ・外国人住民との間のトラブルについては約8割の日本人住民が「特になし」と回答しています(問11)。
- ・外国人住民が増えていくことについて「外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える」「人口が増え地域が活性化する」など肯定的な回答が約5割であるのに対し、約4割は「習慣や文化の違いから日本人住民との間でトラブルが増える恐れがある」「地域の治安が悪化する恐れがある」と否定的です(問12)。
- ・外国人住民と共に暮らしていけるまちづくりのため日本人住民としてできることとして、「日頃からあいさつなど声をかけ合う」「日本の習慣や地域のルールを伝え話し合う」「地域のお祭りやイベントに誘う」といった回答は全体の約6割を占め(問14)、日本人住民が外国人住民に期待することとして、「日本の習慣・生活ルールを守る」「日本語や日本の文化を学ぶ」「地域住民との交流や地域の活動に参加する」といった回答は約7割となって

います(問15)。

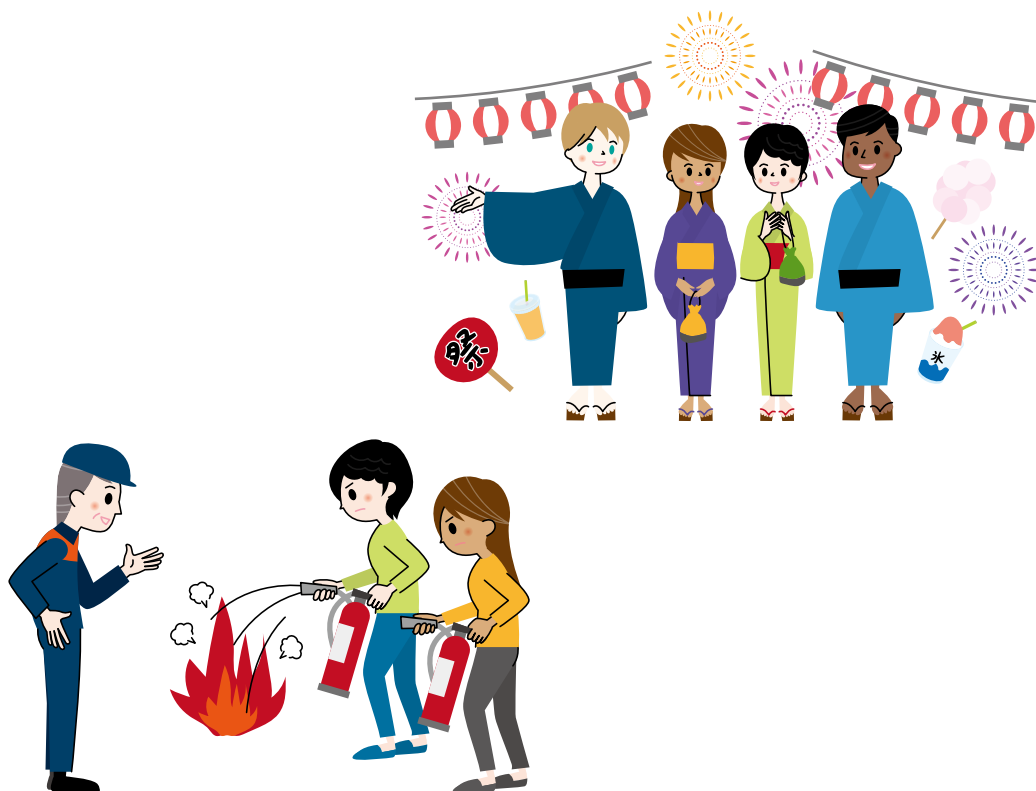
- ・行政(下関市)の取組として今後力を入れるべきものとして、「日本人と外国人住民が交流する機会を増やす」「日本の文化や習慣、生活ルールを外国人住民が学ぶ機会を増やす」との回答は3割で(問16)、多文化交流プログラムの開催には約6割の日本人住民が「ぜひ参加したい」「興味・関心はある」と回答しています(問17)。



### 《課題》

○外国人住民との日常的な交流が少ない日本人住民が多く、外国人住民や多文化共生について関心が低い実態があり、今後、外国人住民との相互理解の促進や地域における住民同士の「顔の見える関係づくり」のため外国人住民と日本人住民との交流機会を増やす取組が求められます。

○本市では日本人住民の外国人に対する差別・偏見や他市の事例にあるような外国人住民との地域トラブルは顕著ではなく、半数近くの日本人住民が外国人住民の増加を肯定的に捉えています。誰もが安全、安心に暮らせるまちづくりを推進していくためには、地域において多文化共生のまちづくりに係る意識啓発イベントや多文化交流プログラムを継続的に開催することで住民の多文化共生の意識を醸成していく必要があります。





## 第3章 計画の基本的な考え方

### 1 基本理念

下関市では、これまで「国際交流」と「国際協力」を柱に様々な国際化施策を展開してきましたが、近年は「技能実習生」の在留資格により市内の企業、事業所で就労する外国人や、市内大学に通学する留学生の数が増加しており、こうした「生活者」としての外国人住民が地域で安全に安心して暮らせるよう支援し、共に地域を構成する一員として相互理解を深め、多文化を活かした豊かなまちづくりを目指す「多文化共生社会」の実現に向けた新たな施策が求められています。

そこで、本市においては、これまでの国際化施策に「多文化共生」の視点を加えた「**多文化共生が拓く下関市の未来**」を基本理念として定め、「国際化に対応した人材育成」「国際交流の促進」「多文化共生のまちづくり」の3つの基本目標を掲げ、目標達成に向けて施策の展開を図ります。

### 2 基本目標

#### 基本目標1 国際化に対応した人材育成

グローバル化が進み、今後も更に諸外国とのつながりが多様化していく中、国際感覚を身につけ国際社会において信頼され活躍できる人材の育成に努めます。

#### 基本目標2 国際交流の促進

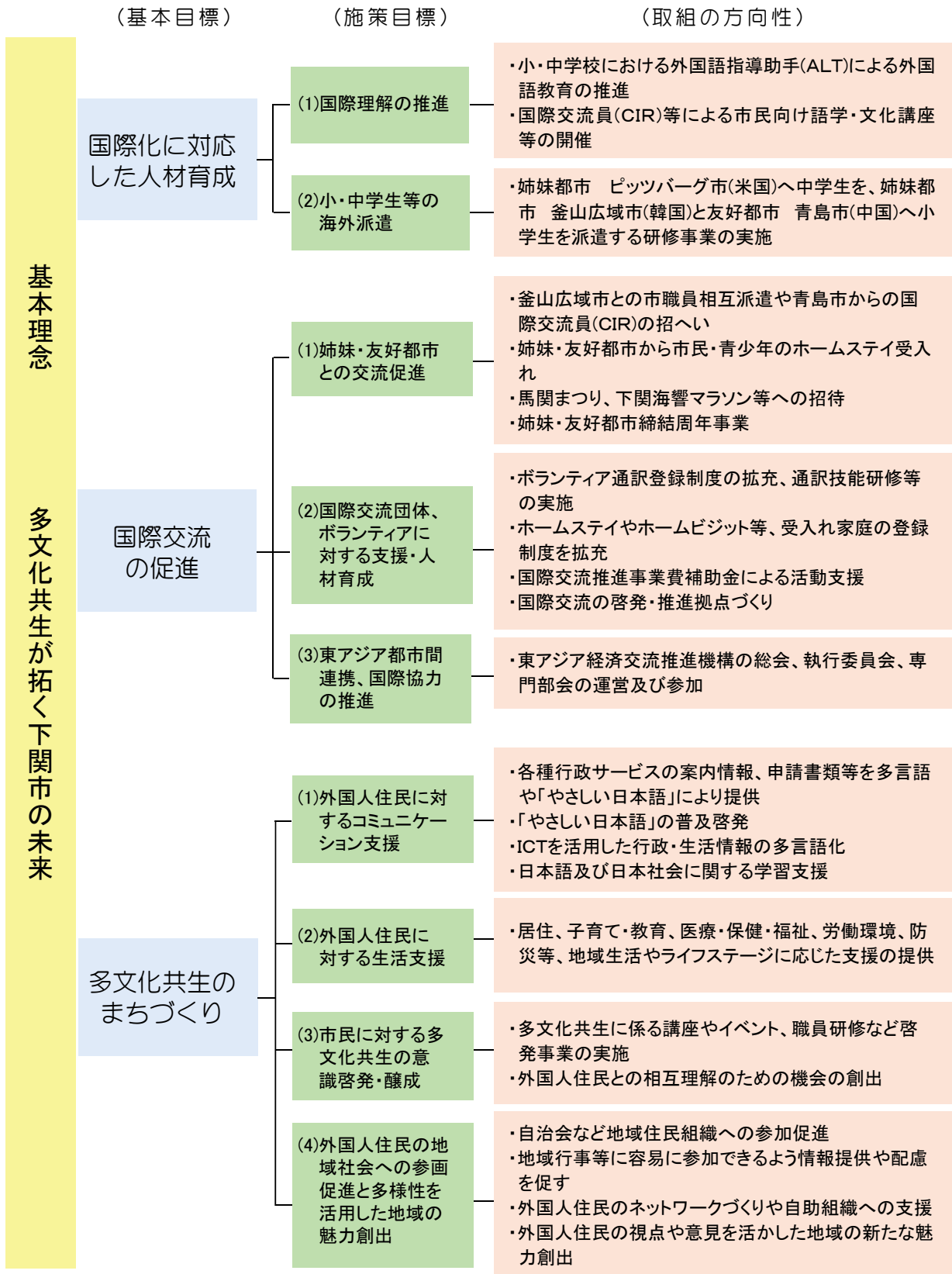
姉妹・友好都市との行政交流をはじめ、民間団体による市民レベルの国際交流活動への支援等を通じて様々な分野での国際交流を促進します。

#### 基本目標3 多文化共生のまちづくり

地域において「生活者」としての外国人＝外国人住民が増加する中、地域の住民が国籍や民族などの異なる人々と互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共に生きていけるよう多文化共生のまちづくりを推進し、多様性を活かした地域の活性化を図ります。

### 3 計画の体系

#### 下関市多文化共生・国際交流推進計画の体系



## 第4章 計画の取り組みについて

### 基本目標1 国際化に対応した人材育成

#### ●施策目標(1) 国際理解の推進

国際化社会に対応できるよう外国の言語・文化・習慣等をはじめ国際情勢への理解を深める機会を提供することにより市民の国際理解を推進します。

#### 取組の方向性

◇小・中学校における外国語指導助手(ALT)の活用により外国語教育を推進します。

◇国際交流員(CIR)等による市民向け語学・文化講座を通じて市民の国際理解を推進します。

#### ●施策目標(2) 小・中学生等の海外派遣

姉妹・友好都市への小・中学生等の派遣研修を通じて国際感覚を醸成し、将来の国際人として活躍できる人材を育成します。

#### 取組の方向性

◇姉妹都市 ピッツバーグ市(米国)へ中学生を、姉妹都市 釜山広域市(韓国)と友好都市 青島市(中国)へ小学生を派遣し、本市児童・生徒の国際感覚を醸成、将来の国際人を育成します。

### 基本目標2 国際交流の促進

#### ●施策目標(1) 姉妹・友好都市との交流促進

本市と姉妹・友好都市との間で国際交流員の招へいや市職員の相互派遣をはじめ、学生のホームステイ受入れや本市で開催されるイベントへの招待等、行政のみならず教育、スポーツ、文化など様々な分野での交流事業を促進します。

#### 取組の方向性

◇釜山広域市との市職員の相互派遣、青島市からの国際交流員(CIR)の招へいを通じて行政間の交流促進を図り、両市の姉妹・友好交流事業が円滑に行われるよう努めます。

◇姉妹・友好都市から市民・青少年のホームステイ受入れに努めます。

◇姉妹・友好都市の市民・青少年を本市で開催される馬関まつり、下関海響マラソン等のイベントに招待し両市民のスポーツ、文化交流を促進します。

◇姉妹・友好都市締結周年事業の実施により両市民の多様な交流が促進するよう努めます。

## ●施策目標(2) 国際交流団体、ボランティアに対する支援及び人材育成

国際交流の推進には交流活動の担い手となる団体やボランティアの役割が重要であり、その活動が円滑かつ活発に行われるよう支援を行うほか、人材の育成に努めます。

取組の方向性
◇市民レベルの国際交流を促進するため、ボランティア通訳の登録制度の拡充や通訳技能のスキルアップ研修の実施により交流活動の担い手となる人材の育成に努めます。
◇ホームステイ・ホームビジットを通じて市民レベルの国際交流と外国人との相互理解が促進されるよう、受入れ家庭の登録制度の拡充に努めます。
◇国際交流推進事業費補助金により民間団体の交流活動を支援し市民レベルの国際交流を促進します。
◇行政と民間団体をつなぐ国際交流の啓発・推進拠点づくりを推進します。

## ●施策目標(3) 東アジア都市間連携、国際協力の推進

本市を含む日本・中国・韓国3か国の11都市で構成する東アジア経済交流推進機構の相互ネットワークを有効に活用し経済、観光、環境等、様々な分野での都市間連携、国際協力を推進します。

取組の方向性
◇東アジア経済交流推進機構の総会、執行委員会、専門部会の運営と参加を通じて国際協力の推進を図ります。

## 基本目標3 多文化共生のまちづくり

住民としての外国人が地域で生活する上で必要となる行政サービスや支援をライフステージの様々な局面に応じて適切かつ円滑に受けられるよう、以下の通り取組の方向性を定めます。

## ●施策目標(1) 外国人住民に対するコミュニケーション支援

取組の方向性
◇各種行政サービスの案内情報や申請・手続き書類等を多言語や「やさしい日本語」による提供に努めます。
◇職員、地域での「やさしい日本語」の普及啓発を促進します。
◇ICTを活用した行政・生活情報の多言語化に努めます。
◇外国人住民が日本語と日本の社会ルールについて学習する機会の提供と、その支援を促進します。

## ●施策目標(2) 外国人住民に対する生活支援

### ①居住について

取組の方向性
◇外国人住民が円滑に住居を確保できるように賃貸住宅の仲介を行う不動産業者や空き家の情報を提供する等の入居支援に努めます。
◇外国人差別の解消や多文化共生に関する意識の啓発を図ります。
◇外国人住民の住宅確保について、公営住宅への入居手続きが円滑に行われるよう努めます。
◇外国人住民に対し敷金、礼金の支払など日本特有の住慣習等について周知するほか、地域のごみカレンダーの提供やごみ分別方法の周知などに努めます。

### ②子育て・教育について

取組の方向性
◇保育制度の仕組みやこども園、保育所の入園手続き等に関する情報を多言語や「やさしい日本語」による提供を促進します。
◇外国人児童・生徒の就学状況を把握し入学の案内や教育制度、就学支援に関する情報等を多言語や「やさしい日本語」による保護者への提供を促進します。
◇日常の学校生活において日本語や学習で支援が必要な外国人児童・生徒について個別支援の実施を促進します。
◇教育・保育現場で多文化共生の理解が進むよう意識の啓発を促進します。
◇外国人の子どもを保護者に学校(園)からのお知らせや日常の学校(園)の様子を多言語や「やさしい日本語」による提供を促進します。
◇外国人児童・生徒の不就学を防止するための子どもの居場所づくりを促進します。
◇学校の入学・進路相談について個別のコミュニケーションが必要な外国人児童・生徒とその保護者への言語支援を促進します。

### ③医療・保健・福祉について

取組の方向性
◇医療、保健、福祉の各制度に関する案内や各種申請・手続きに関する情報を多言語や「やさしい日本語」により提供するよう努めます。
◇外国語での対応が可能な医療機関・薬局に関する情報を提供するよう努めます。
◇外国人住民が利用する介護や障害サービスに係る情報の多言語化やケアプラン作成に係る通訳派遣等の手続きの支援に努めます。
◇感染症流行時における多言語情報の提供や相談体制の整備に努めます。

#### ④労働環境について

取組の方向性
◇ハローワークや関係機関等との連携による外国人の就業や起業、ビジネスモデルの形成等の支援に努めます。
◇監理団体、技能実習生の受入れ企業等に対し適正な労働条件と雇用管理の確保等、法令の遵守や外国人の人権擁護について意識啓発を図ります。
◇大学や商工会議所等の関係団体と連携して留学生の地元企業への就職促進に努めます。

#### ⑤防災について

取組の方向性
◇外国人住民の防災訓練等への参加促進と防災意識の醸成を図ります。
◇防災情報を多言語や「やさしい日本語」による提供に努めます。
◇災害時における外国人を含む地域住民の安否確認、避難経路等の情報伝達、支援体制の整備に努めます。

### ●施策目標(3) 市民に対する多文化共生の意識啓発・醸成

取組の方向性
◇多文化共生に係る講座やイベント、市職員への研修等を開催し、多文化共生の理解促進と意識啓発を図ります。
◇地域において外国人住民との相互理解と「顔の見える関係づくり」を促進するための機会の創出に努めます。

### ●施策目標(4) 外国人住民の地域社会への参画促進と多様性を活用した地域の魅力創出

取組の方向性
◇外国人住民の自治会など地域住民組織への参加促進を図る取組に努めます。
◇地元自治会、外国人雇用先企業等へ外国住民が地域のイベント、活動に容易に参加できるよう情報の提供や参加への配慮を要請する取組に努めます。
◇外国人住民のネットワークづくりや自助組織への支援に努めます。
◇外国人住民の視点や意見を新たな地域の魅力づくりに活かせる仕組みの導入や情報の掘り起こしに努め地域の活性化を図ります。

## 第5章 計画の進行管理及び推進体制

### 1 庁内の連携体制

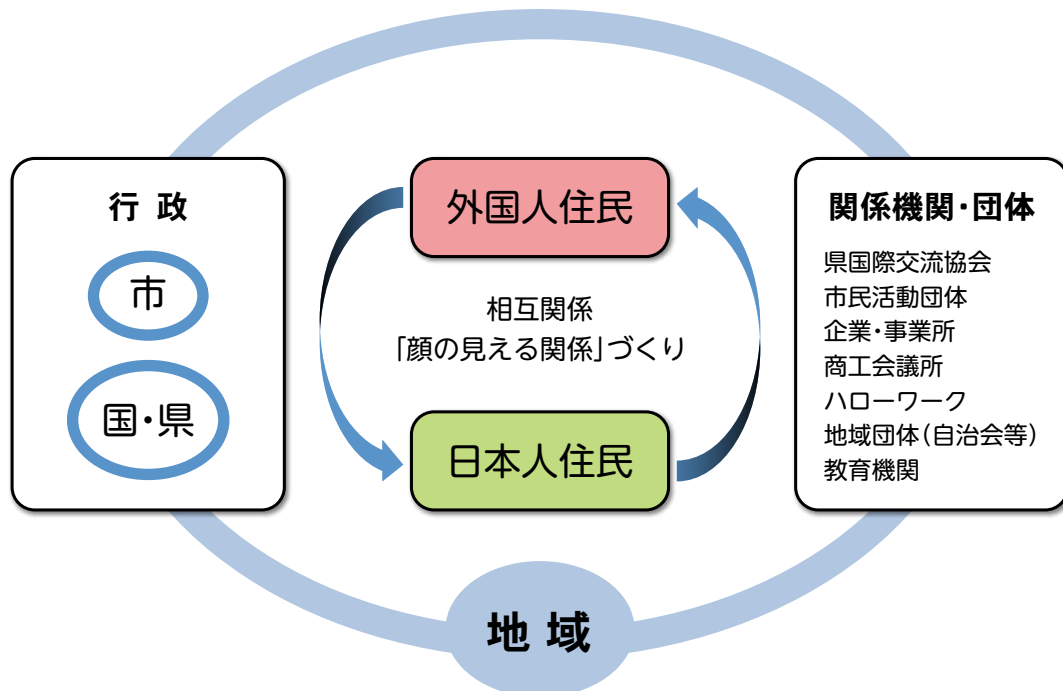
多文化共生社会の実現を目指す本市の国際化施策を推進していくためには、国際交流を所管する課のみならず、全庁的・横断的に取り組む連携体制が必要となります。

そこで、庁内の関係各課が連携して本計画に掲げた基本目標を達成できるよう、施策の取組の方向性の確認等を行う機会を定期的に設けます。

### 2 関係機関等との連携、協働体制

地域で生活する外国人に対する支援については、文化・習慣等の違いから日本人住民とは異なる配慮が必要な事柄も多く、コミュニケーション支援を含め専門的・多面的な支援が求められます。そのため各地域において国や県の関係機関をはじめ、民間支援団体、大学などの多様な主体と連携して地域の社会資源を活用した円滑な支援が行えるよう協働体制の構築を目指し、計画の基本目標である多文化共生のまちづくりを推進します。

#### 【多文化共生の推進に向けた推進体制】



## 関 係 資 料

1. 下関市の姉妹・友好結縁団体
2. 下関市「多文化共生に関する外国人住民アンケート調査」結果
3. 下関市「多文化共生に関する外国人留学生アンケート調査」結果
4. 下関市「多文化共生に関する日本人住民アンケート調査」結果
5. 用語解説



## 1. 下関市の姉妹・友好結縁団体

※名称は提携当時のまま

下関市側	結縁先	提携年	備考
下関市立中央病院	中国 青島市市立医院	1994	
川中西小学校	中国 青島市上清路小学	1984	
一の宮小学校	中国 大連市周水子小学	1996	
日新中学校	中国 青島市第17中学	1984	
山の田中学校	韓国ソウル 鷗亭中学校	2000	
梅光学院中学校	豪州 サザンクロスカソリックカレッジ	2015	
下関商業高等学校	中国 青島市交通職業高級中学	1984	
	韓国 開成高等学校	1986	
	トルコ カバタシュ高校	2017	
下関西高等学校	韓国慶尚南道 慶南科学高等学校	2012	
下関中央工業高等学校	韓国慶尚南道 東義工業高等学校	2008	
下関中等教育学校	韓国慶尚南道 晋州高等学校	2006	
早鞆高等学校	韓国 釜山マーケティング高等学校	1987	
	中国 平谷中学校	2002	
梅光学院高等学校	韓国 南星女子高等学校	1988	
	韓国慶尚南道 伽倻高等学校	2005	
	豪州 サザンクロスカソリックカレッジ校	2015	
下関市立大学	中国 青島大学	1989	友好協定
	中国 北京大学	2003	学術交流協定
	韓国 東義大学校	1990	交換留学協定
	韓国 木浦大学校	2010	学術交流協定
	韓国 釜山外国語大学校	2019	学術交流協定
	豪州 グリフィス大学	1994	派遣留学協定
	豪州 キーンズランド大学	2015	学術交流協定
	米国 ロス・メダノス・カレッジ	2004	学生派遣協定
	米国 ディアブロ・バレー・カレッジ	2019	学術交流協定
	米国 コントウ・コスタ・カレッジ	2019	学術交流協定
	トルコ ボアチチ大学	2009	学術交流協定
	台湾 国立聯合大学	2012	学術交流協定
台湾 銘傳大学	2015	学術交流協定	
ドイツ ルートヴィヒスハーフェン経済大学	2014	学術交流協定	
カナダ アルゴマ大学	2015	派遣留学協定	
梅光学院大学	米国 テキサス州立女子大学	1979	交換留学協定
	米国 インディアナ州立大学	1979	交換留学協定
	米国 カリフォルニア州立大学フレズノ校	1984	交換留学協定
	米国 ノースウェスタンカレッジ	2009	交換留学協定
	米国 シスコカレッジ	2014	派遣協定

下関市側	結縁先	提携年	備考
梅光学院大学	中国 天主教輔仁大学	1999	学術・交換留学
	中国 国立高尾第一科技大學	2005	交換留学協定
	中国 青島大学	2005	学術・交換留学
	韓国大邱 啓明大学校	2002	交換留学協定
	韓国ソウル 慶熙大学校	2010	交換留学協定
	韓国京畿道 水原大学校	2014	交換留学協定
	韓国京畿道 水原科学大学校	2014	交換留学協定
	韓国ソウル 仁徳大学校	2015	交換留学協定
	韓国釜山 靈山大学校	2015	交換留学協定
	豪州 南クイーンズランド大学	2008	交換留学協定
	アイルランド セントパトリックスカレッジ	2009	交換留学協定
	タイ 泰日工業大学	2015	交換留学協定
	マレーシア インティ大学	2016	派遣協定
	マレーシア 国立マレーシア大学クランタン	2016	交換留学協定
	カナダ ノースウェスタンカレッジ	2016	交換留学協定
	カナダ ジョージアンカレッジ	2016	交換留学協定
フィリピン セントラルフィリピン大学	2016	交換留学協定	
東亜大学	韓国大邱 壽城大学校	2008	学術交流協定
	韓国忠清北道 世明大学校	2009	学術交流協定
	韓国慶尚南道 昌信大学校	2009	学術交流協定
	韓国慶尚南道 慶一大学校	2010	学術交流協定
	韓国慶尚南道 韓国国際大学校	2011	学術交流協定
	韓国釜山 靈山大学校	2011	学術交流協定
	韓国蔚山 春海保健大学校	2012	学術交流協定
	韓国蔚山 蔚山大学校	2012	学術交流協定
	韓国大邱 壽城大学校 大学言論社	2012	学術交流協定
	韓国慶尚南道 慶南大学校	2012	学術交流協定
	韓国光州 朝鮮大学校	2013	学術交流協定
	韓国釜山 東亜大学校	2017	学術交流協定
	台湾 修平技術学院	2009	学術交流協定
	台湾 静宜大学	2009	学術交流協定
	台湾 南榮科技大学	2013	学術交流協定
	中国山東省 山東芸術学院	2010	学術交流協定
	中国吉林省 吉林華僑外国語学院	2011	学術交流協定
	中国遼寧省 大連大学	2011	学術交流協定
	中国浙江省 嘉興学院(外国語学院)	2014	学術交流協定
	中国安徽省 安徽外国語学院	2014	学術交流協定
中国黒竜江省 ハルビン劍橋学院	2014	学術交流協定	
中国遼寧省 大連東軟信息大学	2014	学術交流協定	

下関市側	結縁先	提携年	備考
東亜大学	中国天津市 天津外国語大学	2015	学術交流協定
	中国陝西省 西北大学	2015	学術交流協定
	中国安徽省 合肥世界外国語学校	2015	学術交流協定
	中国湖北省 武漢体育学院	2015	学術交流協定
	中国遼寧省 遼寧農業職業技術学院	2016	学術交流協定
	中国陝西省 西北大学職業技術学院	2016	学術交流協定
	中国陝西省 陝西省旅游学校	2016	学術交流協定
	中国黒竜江省 黒竜江東方学院	2016	学術交流協定
	米国 ハワイ州立大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ	2012	学術交流協定
	タイ スアンスナンタ・ラチャパット大学	2016	学術交流協定
	ベトナム ハイフォン公立大学	2016	学術交流協定
下関水産大学校	韓国釜山 釜慶大学校	1990	
学校法人下関学院	韓国 アカデミー外国語学院	1992	
下関観光コンベンション協会	韓国 済州道観光協会	1984	
	韓国 釜山広域市観光協会	2006	
下関商工会議所	韓国 済州商工会議所	1987	姉妹結縁
	韓国 釜山商工会議所	1988	業務提携
	韓国 仁川商工会議所	1995	業務提携
	韓国 蔚山商工会議所	2004	業務提携
	中国 中国国際商会青島商会	1991	業務提携
	中国 中国国際商会大連商会	1995	業務提携
	中国 天津市商会	1996	友好交流
	中国 中国国際商会天津商会	2004	業務提携
中国 中国国際商会烟台商会	2004	業務提携	
下関商工会議所青年部	韓国 済州商工会議所青年部	2000	姉妹提携
下関青年会議所	韓国 釜山青年会議所	1964	
	フィリピン カガヤンデオロ青年会議所	1974	
	ニュージーランド マウントマンガヌイ青年会議所	1982	
山口県日韓親善協会連合会	韓国 釜山広域市韓日親善協会	1982	
下関市広域日韓親善協会	韓国済州道 済州特別自治道韓日親善協会	2011	
下関ロータリークラブ	韓国 釜山ロータリークラブ	1969	
下関東ロータリークラブ	韓国 釜山中釜山ロータリークラブ	1969	
下関北ロータリークラブ	韓国 東馬山ロータリークラブ	1975	
	台湾 花蓮ロータリークラブ	1978	
下関西ロータリークラブ	韓国 釜山港都ロータリークラブ	1980	
	台湾 高雄西ロータリークラブ	1982	
下関中央ロータリークラブ	台湾 新竹東南ロータリークラブ	2000	
下関ライオンズクラブ	米国ハワイ コナライオンズクラブ	1963	
	米国ポートランド ベンサムライオンズクラブ	1977	

下関市側	結縁先	提携年	備考
下関ライオンズクラブ	韓国 南釜山ライオンズクラブ 台湾 苗栗県国際獅子会	1970 1981	
下関東ライオンズクラブ	米国 ヒロライオンズクラブ 台湾高雄県 橋頭ライオンズクラブ	1967 1989	
下関西ライオンズクラブ	米国ハワイ イーストカウアイライオンズクラブ	1982	
下関北ライオンズクラブ	台湾 花蓮県国際獅子会 韓国 釜山西面ライオンズクラブ	1972 1979	
下関響灘ライオンズクラブ	韓国 釜山宝水ライオンズクラブ	1989	
下関長府ライオンズクラブ	韓国 釜山陽地ライオンズクラブ	1981	
豊浦ライオンズクラブ	韓国 富平ライオンズクラブ 台湾苗栗県 苑裡ライオンズクラブ	1984 1990	
下関中央魚市場(株) 下関魚市場(株)	韓国 釜山共同魚市場	1983	
下関商業開発(株)	韓国 釜山太和ショッピングセンター	1984	
グリーンモール商店街振興組合	韓国 国際市場繁栄会	2011	
日本海洋少年団連盟 下関海洋少年団	韓国 韓国海洋少年団釜山連盟	1984	
下関市セイリング連盟	韓国 釜山市ヨット協会	1980	
下関市ソフトテニス連盟	韓国 釜山市ソフトテニス連盟	1976	
下関市剣道連盟	韓国 釜山広域市剣道会	1983	
下関市バドミントン協会	韓国 釜山広域市バドミントン連合会	1996	
下関市陸上競技協会	韓国 釜山市陸上競技連盟 中国 青島市陸上競技協会	1976 2001	
下関サイクリングクラブ	韓国 釜山白馬サイクリング会	1986	
国際ソロプチミスト下関	韓国 国際ソロプチミスト南ソウルクラブ 韓国 国際ソロプチミスト釜山クラブ 米国 国際ソロプチミストホノルルクラブ 米国 国際ソロプチミストピッツバーグクラブ トルコ 国際ソロプチミストマルマライスタンブルクラブ ブラジル 国際ソロプチミストサントスクラブ	1986 1989 1993 1999 1995 1998	
下関ユネスコ協会	韓国 ソウルユネスコ協会	1990	
下関市消防団	韓国 釜山市中部義勇消防隊昌善地域隊	1992	
下関烟台水産友好協会	中国 烟台下関水産友好協会	1991	
下関郵便局	中国 青島市郵便局	1996	
山口新聞	中国 青島日報社	1996	

## 2. 下関市「多文化共生に関する外国人住民アンケート調査」結果

### あなた自身のことについて質問します

問1 あなたの国籍を教えてください。

	回答数	割合
韓国	26	32.4%
ベトナム	22	27.4%
中国	12	15.0%
フィリピン	9	11.3%
米国	4	5.0%
インドネシア	2	2.5%
タイ	2	2.5%
マレーシア	1	1.3%
ネパール	1	1.3%
ノルウェー	1	1.3%
合計	80	100.0%

問2 あなたの性別を教えてください。

	回答数	割合
男性	33	41.3%
女性	47	58.7%
合計	80	100.0%

問3 あなたの年齢を教えてください。

	回答数	割合
18歳～19歳	0	0.0%
20歳～29歳	25	31.2%
30歳～39歳	14	17.5%
40歳～49歳	9	11.3%
50歳～59歳	11	13.8%
60歳～69歳	15	18.7%
70歳～	6	7.5%
合計	80	100.0%

問4 あなたの住んでいる地区を教えてください。

	回答数	割合
本庁地区	39	48.7%
彦島地区	10	12.5%
豊浦地区	5	6.2%
豊北地区	5	6.2%
長府地区	4	5.0%
菊川地区	4	5.0%
勝山地区	3	3.8%
清末地区	2	2.5%
王喜地区	2	2.5%
安岡地区	2	2.5%
豊田地区	2	2.5%
吉田地区	1	1.3%
川中地区	1	1.3%
合計	80	100.0%

問5 あなたが下関市に来た目的は何ですか。

	回答数	割合
仕事のため	37	46.8%
家族と一緒に暮らすため	35	44.3%
その他	7	8.9%
合計	79	100.0%

問6 あなたの在留資格は何ですか。

	回答数	割合
永住者	34	42.4%
技能実習	23	28.7%
日本人の配偶者等	7	8.7%
技能	3	3.7%
宗教	2	2.5%
永住者の配偶者等	1	1.3%
研究	1	1.3%
教育	1	1.3%
企業内転勤	1	1.3%
研修	1	1.3%
家族滞在	1	1.3%
その他	5	6.2%
合計	80	100.0%

問7 あなたは下関市で何年くらい生活していますか。

	回答数	割合
1～4年	44	55.0%
5～9年	3	3.7%
10～19年	6	7.5%
20年以上	27	33.8%
合計	80	100.0%

問8 あなたは日本で何年くらい生活していますか。

	回答数	割合
1～4年	36	45.0%
5～9年	5	6.3%
10～19年	6	7.5%
20年以上	33	41.2%
合計	80	100.0%

### あなたの住宅について質問します

問9 あなたは、現在、どのような家に住んでいますか。

	回答数	割合
会社や学校の社宅や寮(会社や学校が借りているアパートなどを含む)	30	37.5%
持ち家(一戸建て)	23	28.8%
民間のアパート・マンション	17	21.3%
公営住宅(市営住宅や県営住宅)	4	5.0%
持ち家(マンション)	3	3.7%
その他	3	3.7%
合計	80	100.0%

問10 あなたは、現在住んでいる家をどのようにして見つけましたか。

	回答数	割合
会社や学校の紹介	30	38.5%
不動産業者を通じて	15	19.2%
友人や知人の紹介	8	10.3%
市役所などの行政窓口	3	3.8%
雑誌・新聞	1	1.3%
その他	21	26.9%
合計	78	100.0%

問 11 あなたは現在の家を見つけるときに、どんな困ったことがありましたか。(複数回答)

	回答数	割合
家賃・敷金・礼金が高かった	5	7.0%
入居に必要な保証人が見つけられなかった	4	5.6%
契約の手続きが日本語でわからなかった	4	5.6%
外国人を理由に入居を断られた	3	4.1%
その他	3	4.1%
特になし	53	73.6%
合計	72	100.0%

### あなたの雇用・労働について質問します

問 12 あなたは働いていますか。

	回答数	割合
はい	64	80.0%
いいえ	16	20.0%
合計	80	100.0%

問 12-1 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。あなたはどんな雇われかた(雇用契約)ですか。

	回答数	割合
研修生・実習生	24	37.5%
正社員	15	23.4%
臨時雇用・パートタイマー・アルバイト	10	15.6%
自営業	6	9.4%
派遣・請負社員	5	7.8%
その他	4	6.3%
合計	64	100.0%

問 12-2 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。あなたの仕事の内容は次のどれですか。

	回答数	割合
製造業	15	24.2%
建設業	9	14.5%
教育・学習支援業	8	12.9%
農業・林業	7	11.3%
宿泊業・飲食サービス業	7	11.3%
加工業	6	9.7%
卸売業・小売業	5	8.1%
医療・福祉・介護事業	3	4.8%
漁業	1	1.6%
その他	1	1.6%
合計	62	100.0%

問 12-3 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。あなたの 1 日あたりの労働時間は何時間ですか。

	回答数	割合
1～3 時間	3	4.7%
4～6 時間	8	12.5%
7～9 時間	51	79.7%
10～12 時間	2	3.1%
合計	64	100.0%

問 12-4 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。あなたの 1 週間の労働日数は何日ですか。

	回答数	割合
1日	1	1.6%
2日	1	1.6%
4日	3	4.9%
5日	32	52.5%
6日	24	39.4%
合計	61	100.0%

問 12-5 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。あなたは、現在の仕事をどのようにして見つけましたか。

	回答数	割合
就職斡旋業者を通じて	9	15.8%
母国の友人・知人の紹介	8	14.0%
公共職業安定所（ハローワーク）を通じて	7	12.3%
家族や親族の紹介	5	8.8%
日本人の友人・知人の紹介	5	8.8%
インターネット・SNS	4	7.0%
日本語の新聞・求人雑誌	3	5.3%
その他	16	28.0%
合計	57	100.0%

問 12-6 問 12 で「はい」と答えた方に質問します。今の仕事について、あなたが困っていることは何ですか。  
(3 つまで回答可)

	回答数	割合
賃金が安い	15	23.1%
日本人と待遇が違う	4	6.2%
仕事がかたい	2	3.1%
労働時間が長い	1	1.5%
休暇が取れない	1	1.5%
相談するところがない	1	1.5%
その他	2	3.1%
特になし	39	60.0%
合計	65	100.0%

### あなたの医療・健康保険について質問します

問 13 あなたは健康保険に加入していますか。

	回答数	割合
はい	75	96.2%
いいえ	3	3.8%
合計	78	100.0%

問 13-1 問 13 で「はい」と答えた方に質問します。あなたの健康保険は次のどれですか。

	回答数	割合
勤め先の健康保険（協会けんぽなど）	42	56.0%
国民健康保険	31	41.3%
その他	2	2.7%
合計	75	100.0%

問 13-2 問 13 で「いいえ」と答えた方に質問します。なぜ健康保険に加入していないのですか。

	回答数	割合
保険料が高く払えない	1	50.0%
その他	1	50.0%
合計	2	100.0%



問 14 あなたや家族は病気やけが、出産などで日本の病院に行ったことがありますか。

	回答数	割合
はい	62	81.6%
いいえ	14	18.4%
合計	76	100.0%

問 14-1 問 14 で「はい」と答えた方に質問します。病院に行ったときに困ったことは何ですか。(複数回答)

	回答数	割合
病気やけがの症状がうまく説明できない	16	17.9%
外国語で対応してくれる病院がない(少ない)	11	12.4%
医師や看護師の説明がわからない	11	12.4%
どこの病院に行ったらいいかわからない	8	9.0%
薬の名前や飲み方などの説明がわからない	5	5.6%
医療費が高いこと	5	5.6%
その他	4	4.5%
特になし	29	32.6%
合計	89	100.0%

問 15 あなたや家族が急な病気やけがのとき、あなたはどのようにしますか。(複数回答)

	回答数	割合
自分で救急車を呼ぶ	36	43.4%
日本人の友人・知人に連絡する	16	19.3%
職場や学校に連絡する	15	18.1%
母国の友人・知人に連絡する	4	4.8%
近所の人に連絡する	1	1.2%
その他	8	9.6%
わからない	3	3.6%
合計	83	100.0%

### 防災について質問します

問 16 あなたは災害が起きたときに避難する場所(逃げる場所)を知っていますか。

	回答数	割合
はい	45	57.0%
いいえ	34	43.0%
合計	79	100.0%

問 17 あなたは、災害が起きたときに、主にどんな方法を通じて情報を得ますか。(複数回答)

	回答数	割合
日本のテレビ・ラジオ	35	29.4%
インターネットやSNS	33	27.8%
日本人の友人・知人	31	26.1%
母国の友人・知人	7	5.9%
母国の大使館・領事館	3	2.5%
市役所の広報車	2	1.7%
NPO法人など支援団体	1	0.8%
その他	6	5.0%
わからない	1	0.8%
合計	119	100.0%

問 18 あなたは、災害に対して準備をしていますか。

	回答数	割合
はい	28	35.4%
いいえ	51	64.6%
合計	79	100.0%

問 19 下関市では防災についての講座や各地域で防災訓練を行っています、あなたは参加したことがありますか。

	回答数	割合
はい	11	13.9%
いいえ	68	86.1%
合計	79	100.0%

### あなたと近所や地域の人たちとの関わりについて質問します

問 20 あなたは、隣近所や地域の日本人と、どのように付き合っていますか。

	回答数	割合
よく話をしたり遊びに行ったりする	17	23.9%
たまに話をする	19	26.8%
あいさつをするぐらい	27	38.0%
会っても話はしない	1	1.4%
近所の日本人とは付き合わない	1	1.4%
日本人と話したり付き合う機会がない	6	8.5%
合計	71	100.0%

問 20-1 日本人と会っても話をしない方やお付き合いをしない方に質問します。日本人と話さない、付き合い合わない理由は何ですか。

	回答数	割合
日本人が自分を避けるから	1	50.0%
特に理由はない	1	50.0%
合計	2	100.0%

問 21 あなたは地域の活動に何か参加していますか。

	回答数	割合
はい	27	35.5%
いいえ	49	64.5%
合計	76	100.0%

問 21-1 問 21 で「はい」と答えた方に質問します。どんな活動に参加していますか。(複数回答)

	回答数	割合
地域のお祭りや行事に参加	18	39.1%
地域の清掃活動に参加	12	26.1%
自治会に入って活動している	8	17.4%
学校の行事やPTA活動	5	10.8%
地域の消防団やボランティア団体などで活動	1	2.2%
地域で母国の文化や言葉を広める活動	1	2.2%
その他	1	2.2%
合計	46	100.0%

問 21-2 問 22 で「いいえ」と答えた方に質問します。参加しないのはなぜですか。(複数回答)

	回答数	割合
活動しているのを知らないから	14	31.1%
言葉が通じないから	7	15.6%
誘われないから	6	13.3%
参加する時間がないから	6	13.3%
活動内容に興味がないから	2	4.5%
特に理由はない	10	22.2%
合計	45	100.0%

問 22 あなたは地域でどんなことをしてみたいですか。(複数回答)

	回答数	割合
住んでいるまちの人と一緒にボランティア活動(掃除やお祭りの準備)をしたい	25	28.4%
地域に住んでいる外国人の交流グループを作りたい	17	19.3%
自分の国の文化や言葉、料理などを地域の人や学校の授業で紹介したい	15	17.1%
通訳や翻訳などをして困っている人を助けたい	14	15.9%
自分の国の文化を技術や料理に生かした仕事をしたい	11	12.5%
その他	6	6.8%
合計	88	100.0%

### あなたのお子さんの子育てや教育について質問します

問 23 あなたと一緒に住んでいるお子さんがいますか。

	回答数	割合
いる	25	32.5%
いない	52	67.5%
合計	77	100.0%

問 23-1 問 23 で「いる」と答えた方に質問します。お子さんは何人いますか。

	回答数	割合
1人	11	44.0%
2人	11	44.0%
3人	2	8.0%
4人以上	1	4.0%
合計	25	100.0%

問 23-2 問 23 で「いる」と答えた方に質問します。お子さんはどこに通っていますか。(複数回答)

	回答数	割合
保育園・幼稚園・こども園	2	6.7%
小学校	7	23.3%
中学校	6	20.0%
高校	3	10.0%
その他	8	26.7%
どこにも通っていない	4	13.3%
合計	30	100.0%

問 23-3 問 23-2 で「通っていない」と答えた方に質問します。通っていないのはどうしてですか。(複数回答)

	回答数	割合
日本語がわからないから	1	25.0%
すぐ帰国するから	1	25.0%
その他	2	50.0%
合計	4	100.0%

問 24 お子さんは日本語がどれくらいできますか。(複数回答)

	回答数	割合
学校の授業などを十分理解できる程度	11	55.0%
日常生活では困らない程度	5	25.0%
ほとんどできない	3	15.0%
どれくらいできるかわからない	1	5.0%
合計	20	100.0%

問 25 お子さんの子育てや教育・学校で困っていること、不安なことは何ですか。(複数回答)

	回答数	割合
外国人を理由にいじめや差別を受ける	3	14.3%
日本語の読み書きができず授業がわからない	1	4.8%
給食が食べられない(味付け・食材・宗教上の理由)	1	4.8%
特になし	16	76.1%
合計	21	100.0%

問 26 お子さんの子育てや教育について、どんな支援があったらいいと思いますか。(3つまで回答可)

	回答数	割合
児童福祉や母子保健(健康診断や予防接種)についての母国語によるガイドブックの発行	3	13.0%
子どもへの日本語による学習支援	2	8.7%
子どもへの母国語による学習支援	2	8.7%
行政や保育園、学校からのお知らせ文書を理解するための支援	2	8.7%
子どもの教育について相談できる外国人窓口	1	4.4%
入学・入園の手続き(相談・通訳・同行など)の支援	1	4.4%
その他	1	4.4%
特に支援はいらない	11	47.7%
合計	23	100.0%

問 27 現在、中学生のお子さんがある方に質問します。お子さんは中学校を卒業後、どうされますか。

	回答数	割合
日本の高校に進学する	5	83.3%
母国の高校に進学する	1	16.7%
合計	6	100.0%

### あなたの日本語能力について質問します

問 28 あなたの「日本語を聞く」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく聞き取れる(日本人と同じくらい)	18	23.1%
ほとんど聞き取れる	19	24.4%
ゆっくりなら聞き取れる	31	39.7%
単語なら聞き取れる	5	6.4%
ほとんど聞き取れない	5	6.4%
合計	78	100.0%

問 29 あなたの「日本語を話す」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく話せる(日本人と同じくらい)	15	19.5%
会話にはほとんど困らない	20	26.0%
日常会話ができる	24	31.1%
単語なら話せる	13	16.9%
ほとんど話せない	5	6.5%
合計	77	100.0%

問 30 あなたの「日本語を読む」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく読める(日本人と同じくらい)	7	9.1%
読むのにはほとんど困らない	12	15.6%
簡単な漢字とひらがな、カタカナは読める	32	41.5%
ひらがな、カタカナは読める	22	28.6%
漢字だけ読める	1	1.3%
ほとんど読めない	3	3.9%
合計	77	100.0%

問 31 あなたの「日本語を書く」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく書ける（日本人と同じくらい）	5	6.4%
書くのにはほとんど困らない	7	9.0%
簡単な漢字とひらがな、カタカナは書ける	38	48.7%
ひらがな、カタカナは書ける	26	33.3%
まったく書けない	2	2.6%
合計	78	100.0%

問 32 あなたは現在、日本語を勉強していますか。

	回答数	割合
勉強している	46	61.4%
日本語ができるので勉強する必要がない	13	17.3%
勉強する時間と自分の時間が合わない	4	5.3%
勉強したいが時間がない	4	5.3%
勉強したいがお金がない	2	2.7%
どこで勉強すればいいかわからない	2	2.7%
その他	4	5.3%
合計	75	100.0%

問 32-1 問 32 で「勉強している」と答えた方に質問します。あなたは現在、どこで日本語を勉強していますか。（複数回答）

	回答数	割合
自分ひとりで勉強（テレビ・ラジオの講座、通信教育、インターネットなど）	32	60.3%
日本人の友人・知人から	8	15.1%
家族・親族から	7	13.2%
勤め先の日本語研修	3	5.7%
ボランティアの日本語教室	2	3.8%
その他	1	1.9%
合計	53	100.0%

### あなたの日常生活について質問します

問 33 日常生活で困ったこと、困っていることは何ですか。（3 つまで回答可）

	回答数	割合
母国の人や他の外国人と交流できる場がない	9	9.9%
近所付き合いが難しい	8	8.8%
税金の仕組みがわからない	8	8.8%
介護・福祉サービスの仕組みや利用手続きがわからない	5	5.5%
ごみの出し方がわからない	4	4.4%
バスや電車などの公共交通機関の利用の仕方がわからない	4	4.4%
自分や家族への差別や偏見	1	1.1%
その他	1	1.1%
特になし	51	56.0%
合計	91	100.0%

問 34 あなたは生活で困ったとき、だれに、またはどこに相談しますか。（複数回答）

	回答数	割合
家族・親戚	35	33.9%
日本人の友人・知人	24	23.3%
職場の人や学校、寮の先生・職員	17	16.5%
自分の住んでいる地域や近所の人	6	5.8%
母国や外国人の友人・知人	5	4.9%
市役所など行政の相談窓口	5	4.9%
支援団体や監理団体、県国際交流協会の人	4	3.9%
大使館・領事館	2	1.9%
その他	4	3.9%
相談する相手がいない	1	1.0%
合計	103	100.0%

問 35 あなたは日常の生活情報を主にどこから得ていますか。(3 つまで回答可)

	回答数	割合
日本語のテレビ・ラジオや新聞・雑誌	40	25.4%
SNS (Facebook/Twitter/Line/Wechat/Weibo/Instagram)	21	13.4%
家族・親戚	19	12.1%
日本人の友人・知人	16	10.2%
インターネット	16	10.2%
母国語のテレビ・ラジオや新聞・雑誌	12	7.6%
自分と同じ国の友人や他の外国人の友人・知人	10	6.4%
市報しものせき	9	5.7%
会社・学校を通じて	7	4.5%
下関市のホームページ	2	1.3%
支援団体や監理団体、県国際交流協会など	2	1.3%
大使館・領事館	1	0.6%
その他	2	1.3%
合計	157	100.0%

問 36 あなたは市役所の本庁や支所に来たときに、どんな困ったことがありましたか。(複数回答)

	回答数	割合
書類が日本語で内容がわからなかった	13	14.1%
職員の説明が難しく、内容や手続きの仕方がよく理解できなかった	13	14.1%
外国語の案内表示がないので、どこの窓口に行ったらいいのかわからなかった	8	8.7%
窓口で言葉が通じなかった	6	6.5%
その他	3	3.3%
特になし	49	53.3%
合計	92	100.0%

問 37 あなたは、これまで日本人からの差別や偏見を感じたことがありますか。

	回答数	割合
はい	27	34.2%
いいえ	52	65.8%
合計	79	100.0%

問 37-1 問 37 で「はい」と答えた方に質問します。それはどんなときに感じましたか。(複数回答)

	回答数	割合
仕事をするとき	16	35.6%
近所の人との付き合いの中で	8	17.8%
住宅を探るとき	5	11.1%
電車やバスなどに乗ったとき	5	11.1%
自分や家族が結婚するとき	4	8.9%
市役所などの手続きのとき	2	4.4%
学校など教育の場で	2	4.4%
その他	3	6.7%
合計	45	100.0%

問 38 あなたがよく行く、同じ国の人に会える場所はどこですか。(複数回答)

	回答数	割合
スーパーマーケット	29	43.3%
レストラン・カフェ	10	14.9%
教会	4	6.0%
寺院	1	1.5%
日本語教室	1	1.5%
支援団体や国際交流協会	1	1.5%
その他	21	31.3%
合計	67	100.0%

問 39 あなたは、外国人が暮らしやすいまちとなるために、下関市にはどんなことが必要だと思いますか。  
(3 つまで回答可)

	回答数	割合
外国人が地域の活動に参加する機会を増やす	18	12.8%
外国人のための相談窓口を設置する	14	10.0%
日本の生活ルールや習慣・文化を学ぶ機会を増やす	13	9.3%
外国語での行政情報・案内を充実させる	12	8.6%
外国人と日本人が交流する機会を増やす	12	8.6%
日本語を学ぶ機会や場所を増やす	11	7.9%
外国人の就職や就労環境の改善を支援する	10	7.1%
外国語の案内表示を増やす	9	6.4%
外国人の意見を行政に生かす	8	5.7%
外国人の住宅入居を支援する	7	5.0%
外国人の子どもの子育て・教育を支援する	5	3.6%
特になし	21	15.0%
合計	140	100.0%

問 40 今後も日本に住む予定ですか。

	回答数	割合
はい	68	90.7%
いいえ	7	9.3%
合計	75	100.0%

問 41 今後も下関市に引き続き住みたいですか。

	回答数	割合
はい	67	87.0%
いいえ	10	13.0%
合計	77	100.0%

問 41-1 問 41 で「はい」と答えた方に質問します。その理由は何ですか。(自由記入欄)

- 以下、抜粋(一部要約)
- ・都会でも田舎でもない静かな所がとても気に入っているため。
  - ・素敵な自然の環境で人が親切だから。
  - ・長く下関市に住んで生活など慣れているから。
  - ・下関は景色も美しい静かで買い物にも便利なおとこだから。
  - ・住みやすいから。
  - ・夫が日本人。下関は他と比べて外国人にウェルカムな対応。
  - ・仕事も家族も下関でするので引き続き住む予定。

問 41-2 問 41 で「いいえ」と答えた方に質問します。その理由は何ですか。(自由記入欄)

- 以下、抜粋(一部要約)
- ・技能実習生のため実習終了後、帰国する。
  - ・文化生活が少ないし交通とかが不便。
  - ・税金が高いため。

問 42 最後に、外国人の住みやすいまちづくりについての下関市に対するご意見や今後、取り組んで欲しいこと、またこの調査に対する感想などありましたら、ご自由にお書きください。(自由記入欄)

- 以下、抜粋(一部要約)
- ・下関市民は、港町で外国との交流も多かったためか外国人に対して、よそよそしさが他地域(外国人の多い広島などと比べても)より少ない。コミュニケーションが取り易い。
  - ・日本の生活習慣、行事、ルール、しきたりについて外国人向けに説明する機会を設けた方が良い。
  - ・外国人同士の交流会などがあると思う。
  - ・母国の人同士でコミュニティーを作ることが出来れば相談もできるので心強い。
  - ・日本語が勉強できるようボランティアの日本語教室を開いてほしい。

- ・日本語教室の時間をもっと多くしてほしい。外国人の子供は自分の国の言語の教室があつたらいいと思う。
- ・いちばん苦労したのは仕事探し。仕事を探す時、外国人向けの簡単で利用しやすい仕事紹介所があればと思う。
- ・困ったとき相談するところや外国人に割引を提供する場所がほしい。
- ・日本人と一緒に紅葉を見に行ったり、ボランティア活動に参加できるイベントを開催してほしい。
- ・行政によるお知らせ文章などが日本語自体が難しく書かれていることが多いので困る。
- ・まちづくりの計画には、外国人も参加させて、いろいろな意見を聞いてほしい。

### 3. 下関市「多文化共生に関する外国人留学生アンケート調査」結果

#### あなた自身のことについて質問します

問1 あなたの国籍を教えてください。

	回答数	割合
ベトナム	32	32.0%
中国	26	26.0%
韓国	21	21.0%
スリランカ	5	5.0%
タイ	5	5.0%
ネパール	4	4.0%
モンゴル	3	3.0%
ミャンマー	2	2.0%
トルコ	1	1.0%
マレーシア	1	1.0%
合計	100	100.0%

問2 あなたの性別を教えてください。

	回答数	割合
男性	40	40.0%
女性	60	60.0%
合計	100	100.0%

問3 あなたの年齢を教えてください。

	回答数	割合
18歳～19歳	15	15.0%
20歳～29歳	81	81.0%
30歳～39歳	4	4.0%
40歳～	0	0.0%
合計	100	100.0%

問4 あなたの住んでいる地区を教えてください。

	回答数	割合
勝山地区	59	63.4%
本庁地区	24	25.8%
川中地区	8	8.6%
長府地区	1	1.1%
小月地区	1	1.1%
合計	93	100.0%

問5 あなたが下関市内の大学に留学した目的は何ですか。

	回答数	割合
将来、日本で就職するため	57	58.7%
母国や外国の日本企業・日系企業に就職するため	15	15.5%
日本語・日本文化などを研究するため	15	15.5%
日本の他の大学・大学院に進学するため	10	10.3%
合計	97	100.0%



問6 あなたは下関市で何年くらい生活していますか。

	回答数	割合
0年～6か月未満	8	8.1%
6か月～1年未満	8	8.1%
1年～2年未満	49	49.5%
2年～3年未満	24	24.2%
3年～4年未満	10	10.1%
合計	99	100.0%

問7 あなたは日本で何年くらい生活していますか。

	回答数	割合
6か月～1年未満	6	6.1%
1年～2年未満	40	40.4%
2年～3年未満	21	21.2%
3年～4年未満	17	17.2%
4年以上	15	15.1%
合計	99	100.0%

### あなたの住まいについて質問します

問8 あなたは、現在、どのような家に住んでいますか。

	回答数	割合
民間のアパート	76	76.0%
大学の寮(大学が借りているアパートなどを含む)	14	14.0%
友人・知人が所有している家を借りている	6	6.0%
友人・知人とシェアハウス	2	2.0%
その他	2	2.0%
合計	100	100.0%

問9 あなたは、現在住んでいる家をどのようにして見つけましたか。

	回答数	割合
不動産業者を通じて	54	54.6%
大学の紹介により	28	28.3%
友人・知人からの紹介	14	14.1%
新聞・住宅紹介雑誌を見て	1	1.0%
その他	2	2.0%
合計	99	100.0%

問10 あなたは現在の家を見つけるときに、どんな困ったことがありましたか。(複数回答)

	回答数	割合
家賃・敷金・礼金が高かった	37	25.5%
外国人を理由に入居を断られた	24	16.6%
契約の手続きが日本語でわからなかった	23	15.9%
入居に必要な保証人が見つけられなかった	15	10.3%
外国人に対応できる不動産業者がなかった(少なかった)	10	6.9%
その他	3	2.1%
特になし	33	22.7%
合計	145	100.0%

### あなたのアルバイトについて質問します

問11 あなたはアルバイトをしていますか。

	回答数	割合
はい	78	78.8%
いいえ	17	17.2%
アルバイトをしたいが、できない	4	4.0%
合計	99	100.0%

問 11-1 問 11 で「はい」と答えた方に質問します。あなたはどんなアルバイトをしていますか。

	回答数	割合
コンビニエンスストアやスーパーマーケットでの仕事	32	42.2%
飲食店での仕事	26	34.2%
食品加工の仕事	8	10.5%
ホテル・旅館等での仕事	1	1.3%
警備の仕事	1	1.3%
学習塾の講師や家庭教師	1	1.3%
建設の仕事	1	1.3%
その他	6	7.9%
合計	76	100.0%

問 11-2 問 11 で「はい」と答えた方に質問します。あなたの 1 日あたりのアルバイト時間は何時間ですか。

	回答数	割合
1～3 時間	8	11.0%
4～6 時間	53	72.6%
7～9 時間	12	16.4%
合計	73	100.0%

問 11-3 問 11 で「はい」と答えた方に質問します。あなたの 1 週間のアルバイト日数は何日ですか。

	回答数	割合
1 日	1	1.3%
2 日	3	4.0%
3 日	25	33.4%
4 日	18	24.0%
5 日	21	28.0%
6 日	4	5.3%
7 日	3	4.0%
合計	75	100.0%

問 11-4 問 11 で「はい」と答えた方に質問します。あなたは、現在のアルバイトをどのようにして見つけましたか。

	回答数	割合
学校の友人や知人を通じて	42	56.0%
インターネット	16	21.4%
大学を通じて	7	9.3%
日本の新聞・求人雑誌を通じて	3	4.0%
公共職業安定所（ハローワーク）	1	1.3%
その他	6	8.0%
合計	75	100.0%

問 11-5 問 11 で「はい」と答えた方に質問します。現在のアルバイトについて、あなたが困っていることは何ですか。（3 つまで回答可）

	回答数	割合
アルバイトに時間をとられてしまう	12	16.0%
賃金が安い	12	16.0%
仕事がつい	4	5.3%
アルバイト先での人間関係	4	5.3%
アルバイトの時間帯が自分の希望と合わない	3	4.0%
その他	1	1.4%
特になし	39	52.0%
合計	75	100.0%

問 12 問 11 で「いいえ」と「アルバイトをしたいが、できない」と答えた方に質問します。していない理由、できない理由は何ですか。

	回答数	割合
アルバイトをする必要がない	8	40.0%
自分にあったアルバイト先が見つからない	4	20.0%
アルバイトをする時間がない	3	15.0%
アルバイトをしたいと思わない	1	5.0%
その他	2	10.0%
特に理由はない	2	10.0%
合計	20	100.0%

### あなたの医療・健康保険について質問します

問 13 あなたは健康保険に加入していますか。

	回答数	割合
はい	91	95.8%
いいえ	4	4.2%
合計	95	100.0%

問 13-1 問 13 で「いいえ」と答えた方に質問します。なぜ健康保険に加入していないのですか。

	回答数	割合
保険料が高いから	2	50.0%
保険の加入方法がわからない	1	25.0%
自分が入れる健康保険があることを知らない	1	25.0%
合計	4	100.0%

問 14 あなたは病気やけがなどで日本の病院に行ったことがありますか。

	回答数	割合
はい	47	47.0%
いいえ	53	53.0%
合計	100	100.0%

問 14-1 問 14 で「はい」と答えた方に質問します。病院に行ったときに困ったことは何ですか。(複数回答)

	回答数	割合
外国語で対応してくれる病院がない(少ない)	12	17.6%
病気やけがの症状がうまく説明できない	12	17.6%
どこの病院に行ったらいいかわからない	11	16.2%
医師や看護師の説明がわからない	10	14.7%
医療費が高いこと	9	13.3%
薬の名前や飲み方などの説明がわからない	1	1.5%
特になし	13	19.1%
合計	68	100.0%

問 15 あなたは急な病気やけがのとき、どうしますか。(複数回答)

	回答数	割合
自分と同じ国の友人・知人に連絡する	42	39.6%
大学に連絡する	25	23.6%
自分で救急車を呼ぶ	21	19.8%
日本の友人・知人に連絡する	8	7.6%
近所の人に連絡する	2	1.9%
その他	3	2.8%
わからない	5	4.7%
合計	106	100.0%

## 防災について質問します

問 16 あなたは災害が起きたときに避難する場所(逃げる場所)を知っていますか。

	回答数	割合
はい	36	36.4%
いいえ	63	63.6%
合計	99	100.0%

問 17 あなたは、災害が起きたときに、どんな方法を通じて情報を得ますか。(複数回答)

	回答数	割合
インターネットや SNS	64	60.9%
大学の先生・職員	22	20.9%
日本人の友人・知人	6	5.7%
日本のテレビ・ラジオ	5	4.8%
母国の友人・知人	1	1.0%
近所の人	1	1.0%
その他	2	1.9%
わからない	4	3.8%
合計	105	100.0%

問 18 あなたは、災害に対して準備をしていますか。

	回答数	割合
はい	21	21.4%
いいえ	77	78.6%
合計	98	100.0%

問 19 下関市では各地域で防災についての講座や防災訓練を行っています。あなたは参加したことがありますか。

	回答数	割合
はい	15	15.3%
いいえ	83	84.7%
合計	98	100.0%

## あなたと近所や地域の人たちとの関わりについて質問します

問 20 あなたは、隣近所や地域の日本人と、どのように付き合っていますか。

	回答数	割合
よく話をしたり遊びに行ったりする	10	10.4%
たまに話をする	27	28.1%
あいさつをするぐらい	45	46.9%
会っても話はしない	9	9.4%
付き合いわない	2	2.1%
日本人と話したり付き合う機会がない	3	3.1%
合計	96	100.0%

問 20-1 日本人と会っても話をしない方やお付き合いをしないと答えた方に質問します。日本人と話さない、付き合いわない理由は何ですか。

	回答数	割合
話や付き合いをするきっかけがないから	7	70.0%
日本人が自分を避けるから	1	10.0%
その他	1	10.0%
特に理由はない	1	10.0%
合計	10	100.0%

問 21 あなたは地域の活動に参加していますか。

	回答数	割合
はい	15	15.0%
いいえ	85	85.0%
合計	100	100.0%

問 21-1 問 21 で「はい」と答えた方に質問します。どんな活動に参加していますか。(複数回答)

	回答数	割合
地域のお祭りや行事に参加	11	68.7%
地域の消防団やボランティア団体などで活動している	2	12.5%
その他	3	18.8%
合計	16	100.0%

問 21-2 問 21 で「いいえ」と答えた方に質問します。参加しないのはなぜですか。(複数回答)

	回答数	割合
活動しているの知らないから	55	48.3%
誘われないから	18	15.8%
参加する時間がないから	12	10.5%
言葉が通じないから	8	7.0%
活動内容に興味がなから	6	5.3%
特に理由はない	15	13.1%
合計	114	100.0%

問 22 あなたは地域でどんなことをしてみたいですか。(複数回答)

	回答数	割合
通訳や翻訳などをして困っている人を助けたい	43	27.9%
住んでいるまちの人と一緒にボランティア活動(掃除やお祭りの準備など)をしたい	35	22.7%
自分の国の文化や言葉、料理などを地域の人や学校の授業で紹介したい	32	20.8%
地域に住んでいる外国人の交流グループを作りたい	32	20.8%
その他	1	0.7%
特にない	11	7.1%
合計	154	100.0%

### あなたの日本語能力について質問します

問 23 あなたの「日本語を聞く」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく聞き取れる(日本人と同じくらい)	9	9.1%
ほとんど聞き取れる	50	50.5%
ゆっくりなら聞き取れる	37	37.4%
単語なら聞き取れる	3	3.0%
合計	99	100.0%

問 24 あなたの「日本語を話す」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく話せる(日本人と同じくらい)	5	5.1%
会話にはほとんど困らない	41	41.4%
日常会話ができる	46	46.4%
単語なら話せる	7	7.1%
合計	99	100.0%

問 25 あなたの「日本語を読む」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく読める(日本人と同じくらい)	8	8.3%
読むのにはほとんど困らない	39	40.6%
簡単な漢字とひらがな、カタカナは読める	47	49.0%
ひらがな、カタカナは読める	2	2.1%
合計	96	100.0%

問 26 あなたの「日本語を書く」能力はどの程度ですか。

	回答数	割合
不自由なく書ける(日本人と同じくらい)	3	3.1%
書くのにはほとんど困らない	36	36.7%
簡単な漢字とひらがな、カタカナは書ける	54	55.1%
ひらがな、カタカナは書ける	5	5.1%
合計	98	100.0%

問 27 あなたは現在、日本語を勉強していますか。

	回答数	割合
勉強している	89	90.8%
勉強したいが時間がない	3	3.1%
日本語ができるので勉強する必要がない	3	3.1%
勉強したいがお金がない	2	2.0%
勉強できる時間帯と自分の時間帯が合わない	1	1.0%
合計	98	100.0%

問 28 問 27で「勉強している」と答えた方に質問します。あなたは現在、どこで日本語を勉強していますか。  
(複数回答)

	回答数	割合
大学や日本語学校の日本語コースで	63	67.7%
自分ひとりで勉強(テレビ・ラジオ、通信教育、インターネットなど)	25	26.9%
日本人の友人・知人から個人的に習っている	5	5.4%
合計	93	100.0%

問 29 あなたは日本語能力試験(JLPT)に合格しましたか。

	回答数	割合
N1に合格	29	29.6%
N2に合格	22	22.5%
N3に合格	16	16.3%
N4に合格	2	2.0%
N5に合格	10	10.2%
日本語能力試験(JLPT)を受けたことがない	19	19.4%
合計	98	100.0%

### あなたの日常生活について質問します

問 30 日常生活で困ったこと、困っていることは何ですか。(3つまで回答可)

	回答数	割合
今後の進路について	33	20.5%
日本人の友人ができない	25	15.5%
大学の授業のこと	22	13.7%
近所付き合いが難しい	14	8.7%
母国の人や他の外国人と交流できる場がない	12	7.5%
生活の情報を得ることが難しい	11	6.8%
ごみの出し方がわからない	9	5.6%
食事のことや食材の確保が難しい	5	3.1%
自分への差別や偏見	5	3.1%
特になし	25	15.5%
合計	161	100.0%

問 31 あなたは生活で困ったとき、だれに、またはどこに相談しますか。(複数回答)

	回答数	割合
大学の先生・職員	51	50.0%
外国人の友人・知人	26	25.5%
日本人の友人・知人	9	8.8%
近所の人	4	3.9%
支援団体や県国際交流協会	1	1.0%
母国の大使館・領事館	1	1.0%
その他	6	5.9%
相談する相手がない	4	3.9%
合計	102	100.0%

問 32 あなたは下関市の生活情報を主にどこから得ていますか。(3 つまで回答可)

	回答数	割合
大学の先生・職員	76	37.5%
SNS (Facebook/Twitter/Line/Wechat/Weibo/Instagram)	36	17.7%
日本人の友人・知人	30	14.8%
母国や外国人の友人・知人	22	10.8%
日本のテレビ・ラジオ、日本語の新聞・雑誌	21	10.3%
母国語のテレビ・ラジオ・新聞・雑誌	12	5.9%
下関市のホームページ	3	1.5%
母国の大使館・領事館	2	1.0%
市報しものせき	1	0.5%
合計	203	100.0%

問 33 あなたは市役所の本庁や支所に来たときに、どんな困ったことがありましたか。(複数回答)

	回答数	割合
窓口で言葉が通じなかった	20	16.9%
書類が日本語で内容がわからなかった	16	13.6%
職員の説明が難しく、内容や手続きの仕方がよく理解できなかった	15	12.7%
外国語の案内表示がないので、どこの窓口に行っているのかわからなかった	12	10.2%
その他	2	1.7%
特になし	53	44.9%
合計	118	100.0%

問 34 あなたは、これまで日本人からの差別や偏見を感じたことがありますか。

	回答数	割合
はい	40	40.8%
いいえ	58	59.2%
合計	98	100.0%

問 34-1 問 34 で「はい」と答えた方に質問します。それはどんなときに感じましたか。(複数回答)

	回答数	割合
アルバイト先で仕事をするとき	30	56.6%
住まいを探するとき	10	18.8%
日本人の友人と付き合いするとき	6	11.3%
近所の人との付き合いの中で	3	5.7%
電車やバスなどに乗ったとき	2	3.8%
その他	2	3.8%
合計	53	100.0%

問 35 あなたがよく行く、同じ国の人に会える場所はどこですか。(複数回答)

	回答数	割合
レストラン・カフェ	21	22.3%
スーパーマーケット	18	19.2%
日本語教室	15	16.0%
支援団体や国際交流協会のイベント	3	3.2%
寺院	2	2.1%
教会	1	1.1%
その他	34	36.1%
合計	94	100.0%

問 36 外国人が暮らしやすいまちとするために、下関市は何をするべきだと思いますか。(3つまで回答可)

	回答数	割合
日本の生活ルールや習慣・文化を学ぶ機会を増やす	38	15.1%
外国人と日本人が交流する機会を増やす	38	15.1%
外国人の就職や労働環境の改善を支援する	27	10.7%
外国人の住宅入居を支援する	26	10.3%
外国語で行政情報・案内を充実させる	21	8.4%
外国人の子どもの子育て・教育、留学生支援を充実させる	21	8.4%
外国人が地域の活動に参加する機会を増やす	21	8.4%
外国人のための相談窓口を設置する	19	7.6%
外国語の案内表示を増やす	18	7.2%
日本語を学ぶ機会や場所を増やす	12	4.8%
外国人の意見を行政に生かす	7	2.8%
特になし	3	1.2%
合計	251	100.0%

問 37 あなたは、市内の大学を卒業後、どうしますか。

	回答数	割合
日本で就職する	53	55.8%
母国や海外で日本の企業、日系企業に就職する	14	14.7%
日本の他の大学や大学院へ進学する	10	10.5%
その他	1	1.1%
まだ決めていない / わからない	17	17.9%
合計	95	100.0%

問 38 今後も下関市に引き続き住みたいですか。

	回答数	割合
はい	51	52.6%
いいえ	46	47.4%
合計	97	100.0%

問 38-1 問 38 で「はい」と答えた方に質問します。その理由は何ですか。(自由記入欄)

以下、抜粋(一部要約)

- ・風景が美しく自然条件が良い。
- ・静かで住みやすい。大家さんや学校の先生も親切。
- ・人も親切だし物価も安いし自然災害も他の地域より少ないから。
- ・住み心地のよいところ。
- ・今まで行った所の中で安全、安心があり優しい日本人が沢山いるから。

問 38-2 問 38 で「いいえ」と答えた方に質問します。その理由は何ですか。(自由記入欄)

以下、抜粋(一部要約)

- ・ここは静かだけど遊ぶところもない。勉強するには適当なところだが就職した後、他の人と交流する機会が作りたい。
- ・にぎやかな町に住みたい。
- ・日本で仕事をするのに都会の方がいいから。
- ・仕事が少ないので、卒業したら他の県に行く。
- ・将来起業したいので、もっと仕事の機会が多いところに行きたい。
- ・母国の大学院に戻り、その後母国や海外で日本の企業、日系企業に就職する。

問 39 最後に、外国人の住みやすいまちづくりについての下関市に対するご意見や今後、取り組んで欲しいこと、またこの調査に対する感想などありましたら、ご自由にお書きください。(自由記入欄)

以下、抜粋(一部要約)

- ・地震も津波もないし社会問題も少ない。下関の人は優しく、よく留学生を手伝ってくれる。
- ・留学生と外国人に役立つ情報をもっと知らせてほしい。また病気のときにどう対処すべきか、病院や医療についての情報が不足している。
- ・下関市は外国人には住みやすいまちと思うが、学生なので家賃はできるだけ安くしてほしい。



#### 4. 下関市「多文化共生に関する日本人住民アンケート調査」結果

問1 あなたの性別を教えてください。

	回答数	割合
男性	121	45.8%
女性	143	54.2%
合計	264	100.0%

問2 あなたの年齢を教えてください。

	回答数	割合
18歳～19歳	22	8.4%
20歳～29歳	13	5.0%
30歳～39歳	30	11.5%
40歳～49歳	52	19.8%
50歳～59歳	55	21.0%
60歳～69歳	64	24.4%
70歳～	26	9.9%
合計	262	100.0%

問3 あなたの住んでいる地区を教えてください。

	回答数	割合
本庁地区	86	32.8%
彦島地区	28	10.7%
豊北地区	27	10.3%
菊川地区	24	9.2%
豊浦地区	22	8.4%
川中地区	21	8.0%
豊田地区	17	6.5%
長府地区	14	5.3%
勝山地区	7	2.7%
安岡地区	6	2.3%
小月地区	4	1.5%
王司地区	3	1.1%
清末地区	2	0.8%
吉見地区	1	0.4%
合計	262	100.0%

問4 あなたは下関市で何年くらい生活していますか。

	回答数	割合
1年未満	4	1.5%
1年～4年	12	4.6%
5年～9年	12	4.6%
10年～19年	37	14.0%
20年以上	198	75.3%
合計	263	100.0%

問5 あなたが従事している仕事はどれですか。

	回答数	割合
無職(主婦等の家事専業を含む)	70	27.6%
医療・福祉・介護	37	14.6%
卸売・小売業	29	11.4%
製造業	21	8.3%
建設業	13	5.1%
農業・林業	11	4.3%
公務	11	4.3%
教育・学習支援	10	3.9%
宿泊業・飲食業	7	2.8%
その他	45	17.7%
合計	254	100.0%

問6 あなたの雇用形態は次のどれですか。

	回答数	割合
正社員	102	49.0%
臨時雇用・パートタイマー・アルバイト	47	22.6%
自営業	25	12.0%
派遣、請負社員	2	1.0%
その他	32	15.4%
合計	208	100.0%

問7 あなたは近年、下関市内に外国人が増えてきたと感じますか。

	回答数	割合
多くなったと感じる	75	28.5%
ある程度多くなったと感じる	84	31.9%
あまり感じない	76	29.0%
全く感じない	13	4.9%
わからない	15	5.7%
合計	263	100.0%

問8 あなたが日常生活で外国人住民と接する機会は次のどれですか。(3つまで回答可)

	回答数	割合
生活している地域で見かけることがある	139	41.1%
一緒に働いている / 働いたことがある	28	8.3%
学校等で一緒に勉強している / していた	17	5.0%
友人として付き合い合っている / 付き合い合っていた	8	2.4%
自分または家族や親戚が日本在住の外国人と結婚している	8	2.4%
趣味やサークルなどの活動	7	2.0%
校区のPTA活動	4	1.2%
ボランティア活動	1	0.3%
その他	21	6.2%
ほとんどない	67	19.8%
全くない	38	11.3%
合計	338	100.0%

問9 あなたは外国人住民と交流や関りを持ちたいと思いますか。

	回答数	割合
そう思う	30	11.5%
ややそう思う	64	24.6%
あまり思わない	91	35.0%
思わない	36	13.9%
わからない	39	15.0%
合計	260	100.0%

問10 あなたは外国人住民に対して偏見や差別の気持ちがありますか。

	回答数	割合
ある	6	2.3%
時々ある	42	16.2%
あまりない	106	40.8%
全くない	83	31.9%
よくわからない	23	8.8%
合計	260	100.0%

問 11 あなたは外国人住民との間で困ったことがありますか / ありましたか。(3 つまで回答可)

	回答数	割合
宗教や風習に関すること	12	4.3%
ゴミの出し方	10	3.6%
家や部屋からの騒音・物音	8	2.9%
駐車・駐輪の仕方	6	2.1%
集合住宅の共有スペースの使い方	5	1.8%
外国人が経営する店の営業に関すること	4	1.4%
地域の活動に参加しない	2	0.7%
ペットの飼い方	1	0.4%
子どもの行動	1	0.4%
建物の増築・改築	1	0.4%
その他	16	5.7%
特にない	213	76.3%
合計	279	100.0%

問 12 外国人住民は今後さらに増えていくことが見込まれますが、市内に外国人住民が増えていくことについて、あなたはどのように考えますか。(3 つまで回答可)

	回答数	割合
外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	93	18.4%
習慣や文化の違いから日本人住民との間でトラブルが増える恐れがある	91	18.0%
人口が増え地域が活性化する	58	11.4%
地域の多様性が高まり地域が国際化する	53	10.5%
地域の治安が悪化する恐れがある	52	10.3%
外国人の友人・知人をつくる機会が増える	46	9.1%
日本人の雇用が脅かされる恐れがある	27	5.3%
日本固有の文化・風習が損なわれる恐れがある	15	3.0%
その他	4	0.8%
特に影響はない	29	5.7%
わからない	38	7.5%
合計	506	100.0%

問 13 あなたは「多文化共生」という言葉や意味を知っていますか。

	回答数	割合
言葉も意味も知っている	43	16.7%
言葉を知っており意味も少しは知っている	101	39.1%
言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	57	22.1%
言葉も意味も知らない	57	22.1%
合計	258	100.0%

問 13-1 問 13 で「言葉も意味も知っている」または「言葉を知っており意味も少しは知っている」と答えた方に質問します。「多文化共生」という言葉をどこで知りましたか。

	回答数	割合
新聞・書籍	53	34.9%
テレビ・ラジオ	36	23.7%
インターネット	35	23.0%
市報など行政の発行物	13	8.5%
その他	15	9.9%
合計	152	100.0%

問 14 外国人住民と共に暮らしていける地域にするために日本人の住民ができることは何だと思いますか。(3 つまで回答可)

	回答数	割合
日頃からあいさつなど声をかけ合う	164	29.6%
日本の習慣や地域のルールを伝え話し合う	122	22.0%
地域のお祭りやイベントに誘う	62	11.2%
困ったことがないか積極的に話しかける	53	9.6%
外国人との交流会・イベントに参加する	35	6.3%
より良い意思疎通のため外国語を学ぶ	24	4.3%
防災訓練や町内清掃などの地域活動への参加を呼びかける	23	4.2%
自治会や消防団など地域の団体に加入するよう誘う	15	2.7%
外国人が母国の言葉や文化を紹介する講座に参加する	14	2.5%
ボランティア通訳や日本語を教える教室などの講座に参加する	11	2.0%
その他	5	0.9%
特にすることはない	6	1.1%
わからない	20	3.6%
合計	554	100.0%

問 15 外国人住民と共に暮らしていける地域にするために、あなたは外国人住民に何を期待していますか。(3 つまで回答可)

	回答数	割合
日本の習慣・生活ルールを守る	196	38.5%
日本語や日本の文化を学ぶ	94	18.5%
地域住民との交流や地域の活動に参加する	78	15.3%
生活の中で感じたことを提案、発言する	42	8.2%
外国の言葉や文化を教える	28	5.5%
地域の団体に加入し一緒に活動する	25	4.9%
地域で多様性を活かしたイベントの開催や起業を考える	22	4.3%
その他	2	0.4%
特に期待しない	10	2.0%
わからない	12	2.4%
合計	509	100.0%

問 16 日本人住民と外国人住民が共に安心して暮らしていけるまちづくりのために、下関市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。(3 つまで回答可)

	回答数	割合
日本の文化や習慣、生活ルールを外国人住民が学ぶ機会を増やす	118	19.4%
日本人と外国人住民が交流する機会を増やす	83	13.6%
多言語での生活情報や行政案内を充実させる	72	11.8%
外国人の就労や起業、労働環境の改善を支援する	50	8.2%
外国人住民のための相談窓口を設ける	48	7.9%
外国人住民が日本語を学ぶ機会や場を増やす	42	6.9%
NPO法人やボランティアなど外国人を支援する団体やボランティアを育成・支援する	34	5.6%
外国人が地域の活動に参加する機会を増やすようにする	31	5.1%
外国人の子どもや留学生への支援を充実させる	27	4.4%
外国人への偏見・差別をなくすための啓発活動を充実させる	26	4.3%
外国人住民の行政手続きをしやすくする	21	3.4%
外国人の文化や生活を市民に紹介する	21	3.4%
外国人からの意見や提案を行政に活かす	13	2.1%
その他	2	0.3%
特にない	22	3.6%
合計	610	100.0%

問 17 市や市民活動団体が開催する多文化交流プログラムが開催されたら、あなたは参加しますか。

	回答数	割合
ぜひ参加したい	10	4.0%
興味・関心はある	153	60.2%
参加しようと思わない	91	35.8%
合計	254	100.0%

問 17-1 問 17 で「参加しようと思わない」と答えた方に質問します。その理由は何ですか。

	回答数	割合
興味・関心がない	42	47.2%
参加する時間がない	33	37.1%
その他	14	15.7%
合計	89	100.0%

問 18 最後に、多文化共生のまちづくりについて、下関市に対するご意見、今後、取り組んで欲しいこと、またこの調査に対する感想などございましたら、お聞かせください。(自由記入欄)

以下、抜粋(一部要約)

- ・下関市民として現段階では在住外国人の方々には不快な印象はない。継続して下関市民との交流を深める様にして頂きたい。
- ・外国人を受け入れないと人口も減るし産業も回らなくなるので仕方ないと思う。外国人も日本人もみんなが住みやすい街にしてほしい。
- ・下関市から転出者を減らすことの方が大事。ルールを守る外国人なら転入者も歓迎。
- ・日本語教室を開いてお年寄りや子供などが先生になって日本の事を教えたり相手の国の事を聞いたりして話せる環境が出来ればと思う。
- ・ベトナム、ブラジルの小学生の学習支援をしているが彼らは日本で学んでいこうとする意欲が高く感心させられる。まずはコミュニケーションからと感じている。
- ・外国人の子が学校で学ぶ場合、支援員をつけてほしい。
- ・外国人だから、というよりはまず、そこに住む住民としてルールを守ることを周知すべき。
- ・外国人住民の行動は日本のマナーやルールを単に知らないだけである可能性もあることを、われわれ日本人は理解すべき。世界の数多くある国々の中から、この「日本」での暮らし、旅行を選んで下さった外国人の皆様には感謝の気持ちを忘れず、なにか困っている様子を見かけたら頑張って声をかけてみようと思った。
- ・外国人住民のために実生活に密着した「下関での暮らし方 Q&A」の各言語版、動画配信などを行い、わかりやすく PR することが大切だと思う。
- ・下関での習慣、生活ルール等を説明し、お互いの言葉や文化等を共有し共生できたらと思う。
- ・高齢の1人住まいなので外国人が増えると治安がとて不安!
- ・自分の子供が高齢になって再就職するとき、仕事が外国人であふれているのではないか?
- ・トラブルの元となるので多文化共生のまちづくりはしない方が良い。
- ・外国人住民の方々が、「日本に来て良かった!」「下関に住んで良かった!」と思えるまでに。
- ・下関におられる外国人の方の情報を知りたい。言葉が通じてくるとお互いもっと仲よくなり、よい関係が築けていけると思う。日常生活の中でもっとコミュニケーションがとれる場を作ってほしい。
- ・地域に暮らす外国人(留学生も含む)への支援活動をしている団体にも手厚い支援をお願いしたい。
- ・日本人に代わって介護や医療、工場や農業等の重要な労働力となり市や日本の経済も支えてくれる貴重な人材に対してきちんと使い支援をしてあげる事はとても大切な事だと思う。
- ・皆、同じ地球人という気持ちで誰とでも仲良くできたらと思う。外国の文化を知る機会が増えると世界が広がると思う。国際都市、下関のまちづくりを期待している。
- ・2020年のCOVID19問題をきっかけとして共生の意義についてもっと良く検討する余地が大。下関市や山口県の人口が激減している中、共生に関する価値観を共有し易いような仕掛け作りが必要。
- ・外国人住民の方がコミュニケーション不足、地域での孤立、ルールの伝達不足等で困らないように対策をお願いしたい。
- ・多文化共生の必要性などは理解できるが、外国人住民の受け入れが増え、住み慣れた生活環境が変わっていくことの不安は少なからずある。
- ・多文化共生のまちづくりに対して、もう少しインパクトのあるイベントなどをして広げていって欲しい。
- ・下関市は三方向を海に囲まれた港町で歴史的にも常に諸外国と接してきたことから、積極的に外国人の受け入れ交流をする土壌があると思う。人口も減少しており、新たなまちづくりの指針を示し、独自モデルを作ることは街の活性化の面からも非常に重要だと思う。

## 5. 用語解説

用語	解説
ALT	外国人指導助手 (Assistant Language Teacher) の略。主に小・中学校の英語の授業で日本人教師をサポートする外国人。
CIR	国際交流員 (Coordinator for International Relations) の略。主に地方自治体が行う国際交流事業での通訳や翻訳、異文化・国際理解のためのイベント等の企画、運営を補助する事務を担う外国人。
ICT	情報通信技術 (Information and Communication Technology) の略。コンピューター技術を人と人、人とコンピューターの通信に応用する技術。
JLPT	日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) の略。日本語を母語としない人を対象に日本語の運用能力を最上級の N1 から最下級の N5 までの 5 段階で認定する検定試験。
SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social Networking Service) の略。インターネット上で人々が社会的な情報網のつながりを持てるサービス。
監理団体	技能実習生を受け入れた企業が適正に業務 (技能実習) を行っているかを監理、指導する機関。定期的に受け入れ企業を訪問し監査を実施し、その結果を地方入国管理局に報告する。
技能実習生	開発途上国の経済発展に寄与することを目的に「技能実習」という在留資格を取得して日本に滞在し受け入れ先の企業等で就労しながら技術・技能・知識の修得を目指す外国人。食品製造、建設、農業、漁業等の定められた職種について最長 5 年間の在留が認められている。
協働	複数の主体が同じ目的のために対等の立場で協力して活動すること。幅広い組織と企画段階から一緒に作り上げ協力しながら新たな活動やネットワークを産み出す働き。
グローバル化	人・情報・資金・資源・技術等が国境を超えて世界中に広がり、経済をはじめ、政治、文化等において地球規模での結びつきが深まること。グローバル化ともいう。
コミュニティ	人々が共同意識を持って生活を営む一定の地域、及びそれらの人々の集団。
在留資格	外国人が日本に滞在して活動できる資格 (証明)。「出入国管理および難民認定法 (入管法)」によりその種類が規定され、合わせて在留期間も在留資格ごとに定められている。
多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的差異を認め合い対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共に生きていくこと。
出入国在留管理庁	法務省の外局で出入国審査や在留審査、在留管理制度、難民認定等に係る手続きを行う組織。
特別永住者	「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特別法」により定められた在留資格で第二次世界大戦以前から日本に住み、昭和 27 年 (1952 年) サンフランシスコ講和条約により日本国籍を離脱した後も日本に在留している台湾・朝鮮半島出身者とその子孫を対象としている。在留期間に制限がない。
ホームステイ・ホームビジット	外国人を家庭に受け入れ、1 日以上宿泊 (ホームステイ) や数時間の滞在 (ホームビジット) を通じて友好と相互理解を深めるもの。
やさしい日本語	「避難場所」⇒「逃げるところ」など、普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した簡単な日本語のこと。
留学生下関塾	市内大学に通う留学生を対象に下関市の歴史・文化・観光に関する体験学習や施設の見学を通じて本市の魅力を知ってもらうイベント
ライフステージ	幼児期、少年期、青年期、壮年期等、人の生涯における人生の各段階のこと。

**下関市多文化共生・国際交流推進計画 2021～2030**

～多文化共生が拓く下関市の未来～

令和3年(2021年)3月

発行／下関市

編集／下関市総合政策部国際課 多文化共生推進室

〒750-0018 下関市豊前田町3-3-1 海峡メッセ下関604

TEL:083-231-9653 FAX:083-231-9654

E-mail:sskokusa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp



下関市多文化共生・国際交流推進計画

2021～2030